

五稜

1971

10



五 稜



校 歌

一、ひんがしに 古城こじょういだきて

たたなわる 五稜ごりょうが丘おかは

若人わうじんの 息吹いきぶきに満みちぬ

水上みづかみに ふるきをたすね

新あたらしき 光ひかりに立たちて

大おおいなる 力ちから伸のばさん

二 さくら花ばな しるしと仰あおぎ

友ともがきの 堅かたく結むすびて

うち鳴ならす 自主じしゆの鐘かねの音

ひとすじに まことを弱よわめ

築きずきゆゝ、 理り想そうのすがた

ああ とわに われら栄はえあれ

目次

生徒会総務（新旧三役のことば）	（1）
校長のことば	（5）
受賞の数々	（6）
学級プロフィール	（9）
クラブの歩み	（29）
（体育）	（31）
（文化）	（35）
現代中学生気質	（40）

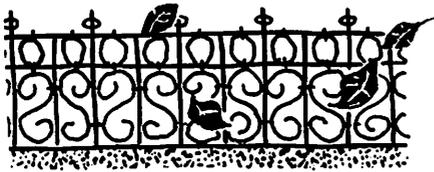
表紙

三年E組

久米田

稔

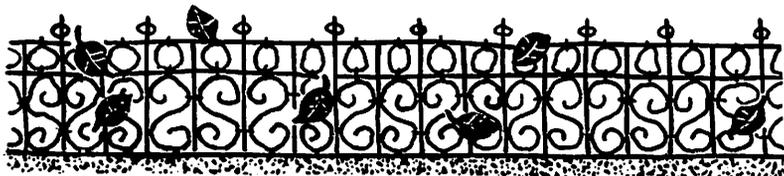
（年輪を振ったものです）



職員室コーナ	47
(先生ナイシヨでね)	48
(ずいひつ)	55
(学校日誌)	59
(職員住所録)	60
文 芸	61
(俳句)	62
(短歌)	63
(詩)	65
(母の日入選作)	74
(感想文)	75
生徒会座談会	80
卒業の光	88
(三年の担任から)	92
(卒業生の住所録)	94
編集後記	100

本誌の写真撮影

斉藤先生



生徒会



執行部に質問



生徒総会



新生徒会役員

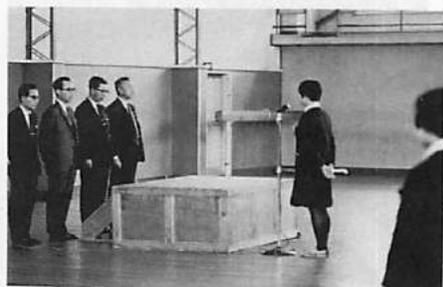


清き一票

新 学 期



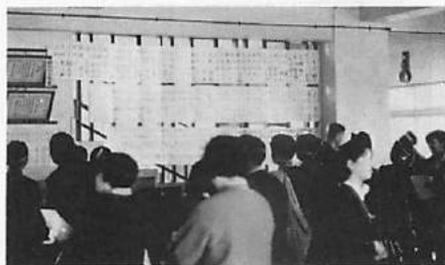
とても親切な
おじさんだった藤崎さん



別れることはつらいけど……



先生、ぼくはさびしいです……



よかった、○○さんといっしょだわ
でも……あの先生怖いわ



どんな先生かしら？
新しく来れた先生方



いいか君たちは、今日から五稜の生徒だ。
しっかりやるんだぞ！

春の行事から



まだ未熟ねえ……



ようこそ、伝統ある五稜に



早く食べたいわねえ



まず砂を拾って



そこに山があるから登るんだ

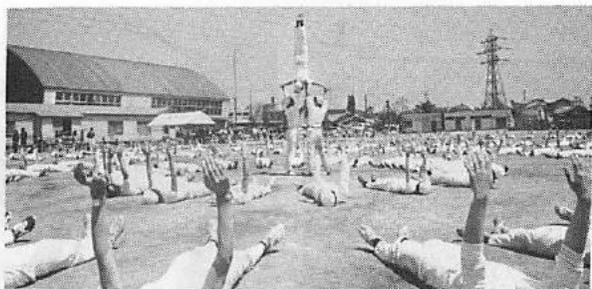


うへっ、うめえなあ



アップに耐える顔

大運動会



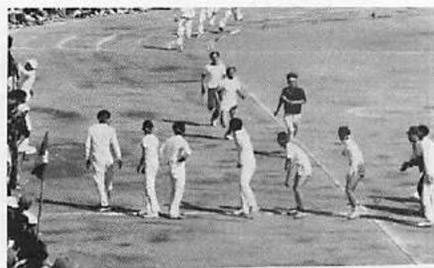
ドットとためいき。うわーきれい。



私のパートナーはだれかしら？



みなさんにこやかですね……



各馬いっせいにスタート
コータローおくらえています



名物百足競走



女生徒ばかり写すんでネエヨオ



俺とおまえは一心同体！

学級対抗



〇〇君ステキーノ



5コースの〇〇〇が小さく見えます



世紀のいっしゆんノ



世界新でしょうか?



サル飛びさすけカッコイイノ



ダボーンすごい水しぶき



打ったノ担任の顔みて…………



スゲー、ウーマンリヴだノ

文化祭



あの大きいの入れてくれるカシラ?



ぼうやおいちいかい?
あーら、私を写すの……



ぼくもほしいなあー



あの展示じゃPR番組も
苦勞スルネエー



さっぱりわからねえけど
色がきれいだなあ



お客さん来たから
テントの中に隠れよう



聴衆は、耳を押えて、ただウツリ



見てみーそっくり

五稜が丘



男子優勝・総合 2 位 (陸上部)
陸の王者五稜



堂々 3 年連続優勝 (卓球部)



涙の準優勝 (野球部)



来年はまた優勝よ (体操部)



技あり第 3 位 (柔道部)



伝統は続く第 3 位 (排球部)



フレイフレー五稜



より美しく。幅10センチへ挑戦



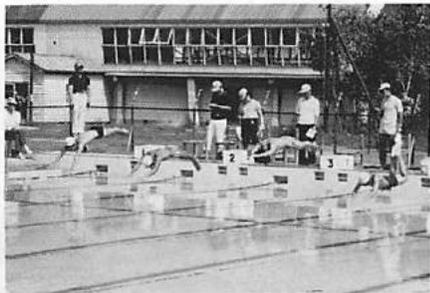
古城の桜……それ！



宣誓私たちは……



必死なのよ



第1のコース五稜！



ゴリョウウー・
ゴリョウウー・ゴリョウウー



決勝進出



学 校 長



職 員 一 同

生徒会

1970 →
1971

生徒会執行部をうけつぎ1年間の終り
をつけようとしている。

我々執行部最後のこととしてはこれ
からの生徒会活動に数々のよい実績を残
してくれることを心から念願する。



デュエットで……来たる投票日には

団体生活の意義

生徒会会長 笹島信平

「団体というものは美しいものだ。しかし現在至る処に繁盛している奴は全然団体ではない。個人個人の相互の理解から新たに団体が成立しなければならぬ」(ヘッセ)

「君、団体生活をどう思う？」と聞かれたらどう答えるだろう。団体生活の利点、それは「他人と意見、感情を交流し人間社会の第一歩を踏むということと自己の成長を促すためのよりよい生活体型ということであろう。団体生活の欠点、それは「個人の欲望は常に団体生活の中にとけ込むことはできない」ということであろう。いかえれば個人の欲望は時として団体生活を破壊しようということである。先に述べてある質問をされたときにはきつとこの類の答えが僕の耳に入ってくるにちがいない。なぜならばこれら当然の事とされているからである。しかし現状はどうであろう。僕はあまりにも当然の事と見なしこれを無視してはいないか。すなわち自分自身の生活を破壊している傾向にあるのではないだろうか。言葉だけで知っていて態度で示さないというのは最低である。現状に甘じているのではなく、現状を見つめる方が大切である。

ではどうしたらよいのか。それは先生方からとやかく言われて「はいはい」と聞いているのではなく一人一人が真剣に事に悩みその悩みのまじわりから連帯意識を高めその結果僕たちの自主的な行動によってそれらを改善していくのが大切であると思う。個人の力は弱い。ゆえに生徒諸君が「気がすく」「目ざめよう」「意識を高めよう」「互いに悩もう」「多いに悩もう」「そしてその悩みから相互の理解を深め新たな団体生活を共に築きあげようではないか!!」

これからの生徒会像

新生徒会会長 鶴川快

「生徒の生徒による生徒のための生徒会」

毎年、新生徒会の立候補がある時一度は耳にすることがあります。このことばについて私なりに日頃考えていることがあります。そもそも、「生徒の生徒による生徒のための生徒会」ということばがなぜ毎年当然のことのようにして叫ばれてきたのか。それは現在の生徒会というものがとかく先生方に頼りすぎたり、役員だけが走り過ぎるという傾向が目立ち、理想の生徒会像というものからかけ離れたものであったからではないのか。そこで私たち新生徒会役員はいろいろ綿密な活動を企画し先生方とも十分を話し合いを持ち、全生徒諸君の要望、批判などもどしどし取り入れて、生徒会、生徒、先生の三つの歯車をしっかりと噛み合ったものにしてゆく覚悟です。又、前生徒会長に「生徒会の活動ではあまり背のびをしないで」とアドバイスをされました。私も、確かに高遠な理想を掲げて努力していくことも必要なことだと思えます。が、それはまずさまざまな細かな問題を解決してからの活動であると私なりに理解しています。私は、生徒会に、「嵐がこようと、地震がこようと」、ピクともしない、しっかりとした土台を築いていきたいのです。生徒会が生徒をひっぱって行くのではなく、生徒が生徒会のおとしをしてくる姿を頭の中に刻みつけ、新役員ともども、努力して行く覚悟です。そして今年こそは「生徒の生徒による生徒のための生徒会」などと叫ばれないためにも、どうか生徒のみなさん。私達の目標に御賛同の上、御協力して下さいることを心からお願ひする次第です。

生徒会活動を終えて

副会長 渋川利幸 書記 照井真一 会計 名古屋 彰

「敵」

「この一年間をふりかえって感じたことは、井の中の蛙大海を知らず」ということである。君達ノ君達の敵は、五陵中の生徒ばかりではない。スポーツにしても勉強にしても、君達の囲りにはもっと敵がいる。君達は、その事を考えたことがあるだろうか。これからの活躍を期待しています。

「協力しろ!!」

「未来の五稜をささえる一、二年の諸君!! 君たちは、生徒会活動にあまりにも関心がないように思える。生徒あつての生徒会、その生徒が生徒会に関心をもっていないのなら、役員は何のために活動するのか? 生徒会役員がかわいそうじゃないか。もっと協力しろ!!」

「視野ヲ広くモテ」

「君たちハ、自分ノコトダケシカ考エテイナイ。ソシテ満足シテイルヨウダ。モット視野ヲ広くモテ。自分ダケノカラニトジコモルナ。君たちハ全員、生徒会員ナノダ。生徒会ノヤルコトニ関心ヲモテ。総務ダケノ生徒会デハナイノダ。忘れルナ!! イイカ。」

副会長 高橋美穂 書記 目加田由美子 会計 大滝 泉

「有意義な仕事をおえて」

「今になってみると失敗ばかりが思い出される一年間、たいへんやりがいのある仕事でしたがその中で協力の必要性を強く感じました。生徒会活動を活発にするには、皆さんの協力が一番必要なのです。生徒会活動の活発化のために、いっそうの協力をお願いします。」

「来年への期待」

「長いようで短かった一年間。私は私なりに努力してきたつもりです。今考えてみると、未熟なことばかりで……。」

「この一年をふりかえって」

「三年生の役員の方々と共に仕事をし、その中で自分を発揮してきたつもりです。また、生徒のみなさんのあたたかい協力がベルマーケにもあらわれました。あの当選の日以来今日まで、私にとっては有意義な一年間でした。」

新生徒会の抱負

副会長 佐々木 直樹 書記 木村 雅彦 会計 横山 淳

「まず足元から」

「役員と共に」

「生徒の協力」

「年々生徒の気質が沈滞していく」と聞く。本来のすばらしい五稜中学校を築くためには、もう一度足元を見つめ直す必要があるのではないかと。たとえば、校舎内の落書きなどがそうだ。私にできる範囲内で、そうした小さなことから改善し、努力していきたいと思う。

気がついたら当選していたというような次第でまだ実感としてはつきりしない。でも大きな責任は感じる。そしてこれだけは言える。生徒と生徒会とのみぞをなくし、「生徒による生徒会」を形成するために会長・副会長と共に歩んでいくことを。

当選にあたって思うことは生徒会の仕事がよく知られていないということだ。生徒会活動をよくわかってもらうには生徒の協力が必要です。どしどし私達に要望をおくってください。私達はそれをもとに身近なことから改め、よりよい生徒会にしてゆきたいと思う。

副会長 大滝 泉 書記 桶田 幸子 会計 目黒 ひとみ

「初心にかえって」

「新鮮さと合理性を」

「身近かなものに」

飽きもせず、また一年間総務局員を勤めさせていただきます。さて、生徒会活動を初心にもどそうといわれている現在です。来年は開校10周年を迎えます。これを一つの転期として、もう一度生徒会のあるべき姿を見つめ直し、私なりに努力していくつもりです。と

思っています。来年度は、いよいよ十周年という曲がり角にあります。生徒会をしっかりとらえ、生徒一人一人のものに……。そのためには、生徒全員の協力のもとに、私達ならではの新鮮さと、合理性を大切にしている生徒会を作って行きたい

と思っています。私が当選にあたり決意したこと、それはまず生徒会というもののみなさんに理解してもらおうということです。そのためにまず、みなさんの生活に関係の深い身近な小さい問題を解決してゆきたい、それによって生徒会を本来の意味での生徒のものにしていくために最善の努力をしていくつもりです。

秀才と鈍才

学校長 梶原四郎

「いくら勉強しても成績があがらない」「俺は頭が悪いんだ」と考えている人がたくさんいる。ここに興味ある実験の結果を二、三紹介しよう。

一、ある大学の教授と学生の記憶力の比較——学生の方が教授に比べて成績が良かった。

二、人は一度に幾つくらいのものを記憶できるか——その内容に係なく五・九（平均七）。

三、人はどれくらい忘れやすいか——普通の状態で一日たったら八十〜九十パーセントは忘れる。

この三つを総合して考えてみれば頭がいい、悪いといっても五十歩百歩で「私は頭が悪いんだ」なんて嘆くことはないと思うのだが……。成績の良し悪しが頭の差でなく、勉強時間の差でもないとなればその原因は何だろう。

まず次の実験結果に注目してください。大学生に相互には関係のない三つのことばを記憶させた後、ある頭痛作業をさせその忘れ度合を調べたら二十秒ぐらいで九十パーセント前後忘れてしまっていた。

ところが、一つだけ記憶させて同様の検査をしたら二十パーセン

トしか忘れなかった。つまり三つおぼえてたらほとんど忘れたが、一つおぼえたらあんまり忘れなかったということです。

さて、学校の授業はどうなっているものだろうか？、教科書やその時間の内容の性格にもよるがほとんどは一時間に一つのまとまりとして指導されるものです。したがって十分理解すれば一つ覚えることになり、不十分な理解をすればたくさん暗記することになります。学習の能率をよくしようとしたら、その時間は勿論前の復習や予習のしかたを工夫して、一時間の授業の内容を一つの理解にすることがです。

次に「理解する」ために大切なことを一つ述べよう。

あなたは「コトバを使わないで考えられますか。」つまり「考えることができる」ということは極端にいい方をすれば、「正しくコトバが使える」ということなのです。「多くのコトバを正しく覚える正確ないいまわしに慣れる」この二つの努力をおこたったら、理解する力はつかないだろう。

秀才と鈍才があるとしたら「どんなコトバに興味をもったか」がその別れ道だったのではないだろうか。

昭和45年度 受賞の数々

今年もいろいろな部門で多数受賞しました。ここにその全貌をご紹介します。



難関を突破（感想文受賞者）

◎ 体 育 部 門 ◎

函館市中体連水泳大会

男子総合

個人 二〇〇M個人メドレー 一戸幹夫

八〇〇M自由形 田島晋

女子総合 優勝

五〇M 平泳 山崎典子

一〇〇M 背泳 鈴木幸子

一〇〇M 自由形 佐竹信子

二〇〇M リレー 佐竹、鈴木

山崎、野崎

函館市中体連体操競技大会

女子総合 準優勝

種目別

跳箱 堂山雅代 第二位

鉄棒 玉木康子 第二位

平均台 堂山雅代 第二位

第十九回道南体操競技大会

女子総合 優勝

個人総合

種目別 平均台 堂山雅代 第一位

平均台 今野郁子 第一位

鉄棒 稲垣 恵 第一位

跳箱 渡辺ひろみ 第三位

堂山雅代 第二位

函館市中学校野球大会

ミノル杯中学校蹴球大会

函館市中学校排球競技大会

函館市中学校柔道競技大会

函館市中学校卓球競技大会

個人

男子 準優勝

女子(三年連続) 優勝

掛端 俊一 第二位

高橋 久美子 第三位

函館市中学校陸上競技大会

男子総合

一〇〇M 山本敏雄 第一位

二〇〇〇M 笹島信也 第二位

二〇〇M 石岡 彰 第三位

総合

優勝

山本敏雄 第一位

笹島信也 第二位

石岡 彰 第三位

第十六回中学校放送陸上競技大会

一〇〇M (全国第一位) 山本敏雄 第一位

※準決勝 一一秒〇 中学日本新記録

一〇〇MH 山田隆嗣 第二位

道南陸上選手権

一〇〇M 山本敏雄 第一位

二〇〇〇M 笹島信也 第二位

二〇〇〇M 鹿内 優 第二位

一〇〇MH 山田隆嗣 第二位

走巾跳 館山一技 第二位

◎ 文化部門 ◎

〔化学部〕
「発明工夫作品入選」

渡島支庁長賞 二年 中村 武文
渡島教育局長賞 二年 笹尾 和代
函館発明協会賞 二年 菊池 信也
函館商工会議所会頭賞 二年 千葉 裕子
努力賞 二年 佐藤 恵子
二年 青野 直一

〔美術部〕

北海道海事広報協会主催
第七回中学生海の図画公募展
佳作賞 一年 小林 裕美子
入選 二年 中村 香
三年 梶田 真紀子
三年 野村 真弓
三年 進藤 美生子

二年 菊地 信也
二年 小池 憲明
三年 佐藤 紀子
二年 加藤 弘一
三年 西村 かおり

〔函館市中学校理科研究発表〕

● リングの変色 ● 三年 高瀬 勝行
● 音とオシロスコープ ● 三年 名古屋 影
● ハエの飛び方 ● 三年 本間 洋
● 鶏卵の発生について ● 三年 伊藤・野崎
今井・村山

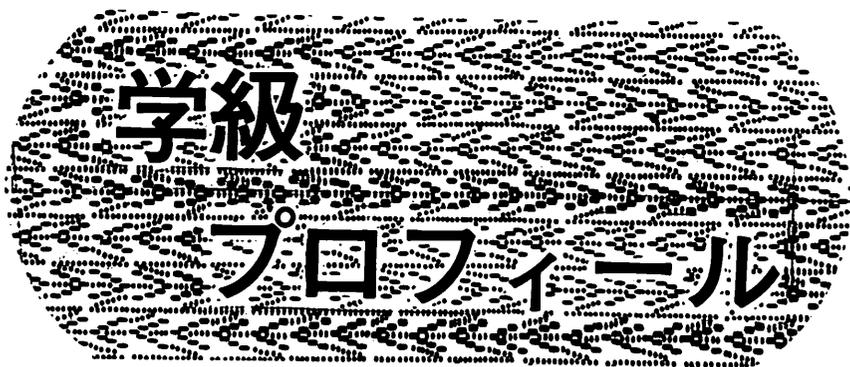
〔全国青少年読書感想文コンクール〕

函館地区審査入賞作品
一年 若松 朋子
二年 笹尾 和代
三年 船水 亘

〔第九回全函館児童生徒席書大会〕

■ 銀賞 一年 佐々木 ひろみ 一年 井端 郷子
一年 塚田 博子 二年 菊地 多希子
■ 銅賞 一年 加藤 昌子 一年 相田 優子
一年 巻口 敏恵 二年 手塚 真佐子

入賞 第十七回函館市小中学校美術展
市展賞 三年 久米田 隼
NHK賞 三年 斉藤 篤
読売新聞社賞 二年 佐々木 正彦 三年 松本 信子
入選 三年 仲川 俊之 三年 武田 雅広
三年 西村 かおり



ジリリーン授業の合図

脳がぎこちなく動き出す

教科書を開き

ノートの白いページをめくると

目は友と先生の姿を追いかけて

脳は大きな口をあげ何かを求め始める

さやさやと教室を吹きぬける風

脳が風と競演する

みんなの顔は輝いている

発表する声は大きく

笑い声は激しいうずをまく

次から次へ飛びこんでくる知識

脳はフル回転

目はららんと輝き

鼓動はだんだんと数を増す

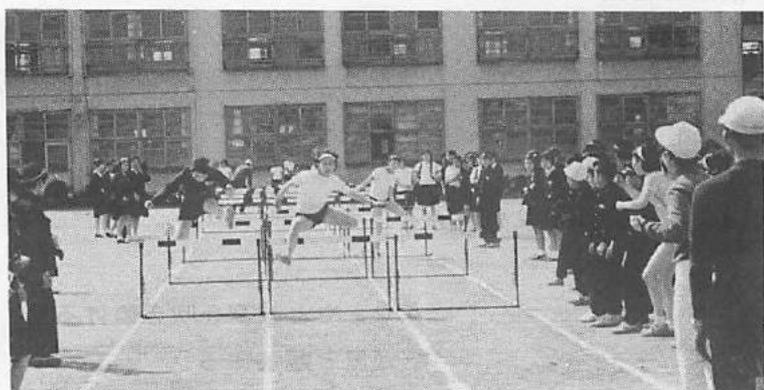
教室での一秒一秒

わたしたちは

もうカラをやぶりはじめている



エーイ、見事なダウンスイング（1年生）



カッコじゃない、記録だよ（2年生）



伴奏の乱れをフエスで？（3年生）

団結力のない組

一年A組

一年A組、それは今まで見たことがないほどうるさい組だ。休み時間、授業時間の区別なくさわいでいる。休み時間というとなえず口論、授業時間になると今度はケシゴムを小さく切つて投げあつていく。そしていつもいばつていく。そのくせ運動会だの文化祭ともなるともるでだめ。いつもでかいことばかりいつているその気持ちはどこへいったといいたくなる。その反面「この組のいいところは？」と聞かれると、ここがいい、あそこがいいというほどの長所もない。そのわけはまず団結力がない。あいつにまかせておけばもういいという弱さだらけ、失敗するとすぐけんかになる。団結力と弱さのため自分自分のもっている力というものがまだじゆうぶん発揮できないままになつているなどがおもなわけで、もしこれを一つ一つ直していくことができればこれほどいい組はないのではないかと思う。

またこの組の人間は先生方にあだなをつけるのがうまいということだ。そしてこの組の担任は三十刈先生といふかわつた先生だ。かわつていふ所は、自分は先生と警官が大きらいだがある人になつて先生になつたのださうだ。そして自分は先生でない先生になつていきたい。と言つていふということだ。しかしいいところはたくさんある。たとえば、冗談をまじえながら、その人が今どういふことをしているのかというのを、正しく導いてくれるということだ。もうこの組のことと先生のこととはわかつたと思うが、最後に、この組はこの組なりに努力しているということだ。

特色のないクラス

三十刈先生

「先生からみた自分の組について」という依頼を受けて、九十%以上の人が高校を望み、将来平凡なサラリーマン生活を夢みている平均的本校生徒のあつまりであるこの組の何が特色なのだろう、どこが他の組とちがうのだろうか、何日も考え、書いては消し、消しては書きしながら、ほとほとこまりはてている。

考えれば考える程、特色が見あたらない。真面目なものもいれば不真面目なものもある。うるさいのもいれば静かなものもある。積極的に物事を処理するのもいれば人のやるのをじつと見ているものもある。個人的には特色をはっきり出せるが組となれば、プラス・マイナス0となる。

最大公約数的に書いてもそれはかたよつた見かたによるものだ。全部が全部かたよつていれば簡単だがさうもいくない。

子供供した顔で、自分のいいことをいい、やりたいことをやり、すこしずつ知恵をつけながら毎日毎日をたのしく、人間らしく生活しているこの組の生徒諸君。嬉しい時には笑い、悲しい時には涙を流し、陽の沈むのもわすれて議論し、笑いながら帰る生徒の姿をみながら、いつまでも明るく、素直な気持ちでほし



ず、すくすくと成長してほしいとねがわずにはいられない。

活発？

一年B組

ヨクシヤベル

本堂先生

本堂潤悦。これがわれらの愛する先生の名である。教科は国語。なかなかりっぱな先生だ。しかるときにはさっとしかり、楽しいときにはいっしょに笑う。決してあいまいなことは言わない。こんなところに生徒の信頼が集まっているのだと思う。

次に生徒の方にうつろう。B組の特徴といったら、第一に活発だということがあげられるだろう。活発といってもうるさすぎるのだ。ベルがなって先生がいらっしやるまでの間はものすごいものである。ひとりひとりがかかってきままなことを話して、生活委員、学習委員が注意しても聞いたものではない。それでいて運動の方はぜんぜんなのである。運動会でも賞状がたったの一枚。水泳大会は五、六位。これではいけないと、ソフトボール大会に全力をつくし、その結果男女三位でまああの成績だった。

第二の特徴としては、チームワークがなくてなく、特に男子と女子の仲があまり良くないことだ。休み時間などでも、男子は男子、女子は女子とすぐかたまってしまう。こうしては、クラス全体でしなければいけないことは、あまり良くできないだろうというところで、現在、男女の仲が平和になるように努力している途中である。今まであげたことをふりかえってみると、短所が実に多い。しかし、その影の多くの長所をみつけ、より良いクラスにしていくことがB組一同の願いである。

B組ってどんなクラス。よく話し合うクラスだよ。休み時間はモチロン、授業でも学活でもよく発表するよ。

「話し合う」は「話し合う」で、開放的な生徒がそろったんだね。（無口な担任の分までシャベってくれるわけ。）

ケイゾクギダイ（継続議題）が試みの一つ。早く言えば、結論を急がないということ。また帰りの学活は終わるまでやるんだ。土曜日以外、担任はヒトコトもさしはさむ余地がない。「サア、カエリマシヨ。」これしか言えないんだよ、全く。もつとも、司会が決をとりにかかると、あとで「キミ、もつとゆっくり決をとれ。」なんてそのかすんだから、自業自得だね。司会（議長、副議長）の四人もナガーンだ。どんな人でも口を開かせてしまうからね。

この頃は「ドウシテ」がやっている。「B組は『ドウシテ』で授業が進まない。」なんて言われるかと思うと時と場で、全くアペコベになるからワカンナイ。雰囲気はひきしまらないことがある。これは担任がユルイノダ。さわいで教室がよごれているときはカナシ

イ。グループができかけてきたのも気になることの一つ。

欲を言えなきゃいけない。まあこんなもんかと火星人は小さな目をパチリ。



野獣王国

一年C組

楽しいクラス

主藤先生

「ジリリ」。6時間目の終業のベルがなる。さあこれから我が一年Cの戦争が始まる。H・Rが始まって、話をやめるなどという気のきいた者は一人もない。勝手に友達の席に行つて、さわいでいる男子。ひそひそとかたまつて、ないしょ話をしている女子。

突然。「うるさい。静かにしろ。」いつもはおとなしい議長が、珍らしくどなった。みんな、一瞬、びっくりしたようだが、「ワーッ」と議長をひやかす。その時「ツツカン、ツツカン」かすかに聞こえた、主藤先生のくつの音。一瞬、教室内は、シーン。日直がいそいで、日誌を読みはじめる。いままでは、想像もつかないような変わりようだ。先生は、「今日は、まじめにやっている」と、目がねの奥の目を細めて、ニコッ。なにも知らないかわいそうな先生。こう書くと、C組は、メチャクチャにうるさくて、だめなクラス。ようだが、良い点だつてある。

授業中は、あんがいまじめだ。でも先生の話が、横道にそれてくると、大変だ。得意のパカ笑いが始まる。いつもは、まじめな優等生?も、いっしょになつてアッハハ。

こんな楽しく、笑いのたえない(ちょっとうるさいが)のが、一年Cの状態である。

一年C組についてどう思うか。一口に表現するのはたいへんむずかしいことなので、私がこんなクラスにしたいなあと考えていることの一つを書き、クラスのムードを紹介することにします。まずクラスの生徒が学校へ来るのが少しでも楽しいなあと思えるようなクラスにしたいということです。そのためには、クラスの生徒全員が積極的に勉強し、クラブや委員の仕事・学校行事等においても自主的に活躍してほしいと思っています。私は生徒とお話することが好きなので、学活、道徳の時間のほかに、掃除当番のあとやクラス委員全体の集まりなどで、生徒の考えや希望、建設的な意見を聞く機会をもっていますが、私自身たいへん参考になっていきます。

ところでC組の諸君はたいへん個性的な人がそろっています。だまつて身体を動かすだけでまわりに笑いをふりまく、ひょうきんなA君。笑わせるのが得意のB君。クラス思いのCさんやDさん、おつちよこちよいのE君、人間味豊かなF想……とさまざま。でもソフトボール等の学級対抗でのチームワークは私をおどろかせました。おとなしそうにみえるがス



ポーツ好きの男子とおしとやかではないけれど、気のいい親切なクラス思いの女子とのコンビが、一年C組独特のムードを作っているのだと思います。

日本一のクラスをめざす

一年D組

わが1Dは、少し変わっているが、とても明るく楽しいクラスである。変わっているとは、まず朝、美男子は、ほとんどが早く来ているが、美女は遅い。1Dでは、八時二十五分までには、教室に全員はいついなければ、遅刻になると、決めていく。が、それをいいこととして、遅くきた者の名前を、どんどん黒板に書き、学級日誌に書くという。少し、くだらないことをやっている。

だが、授業が始まると、みんなは、どういうわけか静かになる。でも、その教科のすきな者は、どんどん手を上げるが、きらいな者は、まったく、知らん顔している。

しかし、休み時間、1Dの教室は、気違い病院と化する。叫ぶ者どなる者、走りまわる者、前の時間の緊張から解放されたという気持ち、爆発するのだらう。そして、まちにまわっていた、弁当の時間。この時に、みんなの仲のよさが、表われる。おかずを、交換する人、ベチャベチャしゃべる人、例外として、一生懸命に食べる人。まったく楽しい時間である。

このような楽しい1Dでも、欠点はある。それはチームワークがなっていないことだ。運動会や水泳大会では、美男子美女四十一名一人一人がベストをつくしたので、よい成績がとれたが、球技大会や合唱コンクールではまったくだめだった。

ただでさえ、明るく楽しいクラスなのだからチームワークさえ、しっかりすれば、日本一のクラスになるだらう。

すずめたち、早く大きくなれ

川原先生

D組の「迷小説家」垣坂君が「学級プロフィール」の原稿を発表した時のさわがしきは大変なものだった。ある部分がひっかかったのだ。にぎやかな「小すずめ」は「美男と野獣」だと言ひ、やや考え深い「中すずめ」は「美女と野獣」だと言ひ、後に座席を占める「大すずめ」は少し大人ぶつてにやにや笑っている。ともかく明るい学級だ。いつも言ひたいことを言っているからか、中学生になりきっていい面があるからかめっぽう明るい。この「明るさ」はほんものかどうかはわからない。学級の中でこれという事件にぶつかってないので一そうわからない。秋の青空にみられる明るさは透明さと無限の広さだ。今のD組はそれを思わせる。いつまでも失わずにと願わずにはいられない。苦しいとき、みじめなとき、かなしいときこそ、それらをはね返す力を、自分のえらんだ道にたちむかっていく力をもった明るさであってほしい。

十年後の「あばれすずめ」「わすれものすずめ」「ちこくすずめ」たちは、きっと五稜で育てられた力を社会に役だてていることだろう。

「むせきにんすずめ」だけはいいとおもっている。



E組はいい組

一年E組

一 Eのある日の生活から

笠島先生

一E、一位。なんでも一位。

これがこの学級のモットーのようなものです。「一E、一位」。は一年E組をもじてあります。また、E組はイイ組だと先生におだてられているが、現実のE組はどうか。

一E、いや一位のほうだが、学級対抗戦での一位はまず水泳大会一位。男子水泳一位。音楽コンクール一位。という成績。しかし、この中に女子の一位がないのがおしい。

でも文化祭の音楽コンクールでは、男女のハーモニーがびったり合って、みごとに一位という成績をのこしました。

次に「イイ組」ということを話しますが、まえにもいったとおり現実の一Eはどうでしょうね。よその組から見ていることはわかりませんからね。でも組のみんなはE組はイイ組だと自覚していますよ。だから先生がE組はイイ組だから何々しろといいますがとすぐにはすまぬ。すなおだから。

しかしこのごろはE組に進歩がないのでこまっています。

進歩がなければ、とうぜん先生の注意が出てきます。朝の学活と朝の学活とでおなじようなことをなんども注意されました。

しかし、このような機会に日夜発展ははじめようとする一年E組です。



在籍は男21名女21名の美男？美女？ばかり42名のクラスである。
○月○日(月) 晴時々雪、今日は肌寒く、雪も散らつき冬将軍の到来も間近のようである。近頃めずらしく欠席遅刻なし。

一、教時(数学件今日は生徒総会があるため、全校朝会なしの変則的な月曜日だ)、勝手が違ってさぞ、さえない授業をしているだろう。二、三教時(美術)今日ポスターである。真剣に制作している者が多いようだ。中にはめずらしく真面目にやっている者、相変らず弁舌をふるっている者、外の一点を見つめ思索していそうな者、興味を示さない者、多種多様なタイプの者がいる。いつもながら静かなのはわずかの間で、すぐ騒がしくなる。例のごとく、静かにノ騒ぐのくり返しである。四教時(体育)学校生活で昼食の次に生き甲斐を感じる時である。さぞ活気に満ちているだろう。五教時(英語)時間書き、いつも競走心を養われる時だ。「よし今日は俺が一位だ。」結果は？いかに。六教時生徒総会、始めは緊張している様子だ。時間がたつ。慣れてきたな。そろそろ行動開始だ。他の者と意見交換に熱が入る。だが発表する勇氣なし。じつと聞き入る者、天下の情勢はいかにとキョロキョロする者、我れ感せずという者。

これが我がクラスの実感の一面である。

我が輩はスピーカーである

一年F組

我が輩は彼らが入学した時から彼らのことをよく見ていて一Fの一人一人のことは、誰よりも知っているとと思う。

さて朝のHRはどのように進められているのだろうか……何と
いうこのさわがしき。議長の声など耳に入らないのだろうか。窓から覗くあの目は何だろう。と一人の少年が「あっ先生だ。……その声でやっとなるもの、先生が去ると、又、さわぎ続ける。彼らの心臓には毛でも生えているのだろうか。そして、一時間目の授業が開始されようとしている。先生が来るまではHRの時のようにさわいでいる。「こら」この一言で授業は開始される。先生からむずかしい問題が投げ出されるが、手を上げる者はいつもきまって三人だ。そしてある者はおはじきをし、またある者は近所の者としてやべつている。我が輩の左右には他の組にはまけないくらいに賞状があるのに、勉強は他の組とは比べものにはならないほど劣っている。このことは、一Fの先生の悩みでもある……そして彼らがまじめにまった休み時間。男子といえばストーブを囲み、なにやらいたずらをしている。女子は静かにあみものかおしゃべり、でも例外もあり男子にまけないくらいさわいでいる者もいる。……。

でも、このごろは少しではあるが、成績も上ってきたようだ。我が輩が見た所、一Fもやるきになればできるのではないか。

これが我が輩が見た一Fである。

憂より喜びを

成田先生

一年F組、男子二十二名、女子二十名の織り成す個性豊かなこの集団。実に活気溢れる学級である。じっとしているのが死ぬほど辛うといった感じのI君、N君、M君。それにすぐ同調する数名の義理堅き友人の協力を得て益々活気を呈する。この活気は休み時間だけに留まることを知らず授業時間にも及び、教科担任の先生方を悩ますことしきりであるらしい。遊びや運動には全員一致協力してぶつかっていく仲のよさで、それが学級対抗の競技大会に次々と賞を勝ちとる大きな要因にもなっているのだが、しかし勉強となると話は異なる。遊びや運動で見せる活気や協力を学習の場で見ることが望むことは、まず絶望に近い状態であった。あった、と過去形で書いたということは、今はそうでもなくなってきたということである。二学期後半にしてようやく十分力を出しきっていないF組としては、遊びや運動に見られるファイトを勉強にも出していく時、他の学級を足もとにも寄せつけないであろうことを信じ、純真、単純な



担任としては、一Fの諸君の一挙一動に一喜一憂しながらも、日一日と憂より喜びの多くなりつつあることを唯一の慰めとして今日も奔馬の手綱さばき心に配るのである。

……「ナニヲニ・Aを紹介しろってノおぬしなかなやるなノ」
写真好きで〇〇マタギみ（失礼）の先生と、チヨロチヨロして幼
ないがまあまあ男らしい男の子、そして美人（？まさかノ）ぞろい
の女の子とから構成されているのが我が二・Aである。

まず授業中についてだが、これまたすばらしい学習態度。毛虫の
おならほどの音も出ない（一部を除く）。授業の先生はあまりにも
うれしらしく、お一人で驚異的な腐をはり上げていらっしやる。
ひきかえ休み時間、ゴリラが自動車にぶつかって、ひっくり返り、
助けを求めているような声を出し、地球上の人間か？と思われる。
このように授業中と休み時間があまりにも違うので、ある先生は、
「しばいのうまい組だ」とほめてくださった。まことに喜ばしいこ
とである（？）。

男子と女子の仲は？と聞かれると迷ってしまう。悪くもないし、
良くもない。なんだかよくわからない。しかし、いざとなると団結
の面では他の組には負けない。文化祭合唱コンクールでは上々の成
績だったし、スポーツ関係も数多くの良い成績を取めた。（勉強の
方はどうかかな？）二・Aはだんぜん男性上位である。（一部を除く）
賞状からみても男子の方がきわめて質がよいのであるのだ。ニヤ
ロメノ（女子の声）

今までのことをまとめると……。なんと申しましようか。誠実・
協調・真理探求という校訓にそなわったクラスなのである（？）。

朝、教室に入る。「おはよう」と声をかけるが、元気な声は返っ
てこない。しかし、朝のスカットした教室の空気はたいへん気が
よい。道徳、学活の時間など私の見ている範囲では非常におとなし
く、よい生徒ばかり（担任に似て）のようである。しかし、一步教
室から出ると（どうかかな——）運動会、学級対抗試合などのとき「
君達の活躍を大いに期待している、頭をつかってプレイしろ」この
一言が効いてか？教室には賞状が八枚もかかってしまった。クラス
の中には「吹けば飛ぶよな女子にいじめられる男子」「男の子とま
ちがえられるよな女子」時には私を悩ませるような問題を引き起
し頭の額が拡大する原因を作る生徒。また、それを気づかう心のや
さしい生徒など、個性豊かな生徒でいっぱいである。最近、女生徒
の中には学級解体を気にしているらしく「先生、どうなるんですか
」の気の早いものによく聞かれるが、男子は無関心のようにある。
学級が面白くなってきているらしい。これはクラスの生徒にいつも
言っているが「二・Aは、君ら自らの手で作り上げてはだめだ」



これが少しずつ築かれてきてい
るようだ。さて、帰りの長い学
活（そう感じているらしい）が
終わると元気よく玄関、屋体、
グラウンドへと突っ走る。二・Aは
ざっとこんなクラスである。

二Bの私生活

二年B組

担任の目

佐々木先生

アーサー(朝)のH・R

「ジーン」と八時三十五分のベルの音。だが席につくものはごくくわずか。ある者はホッケーを、またある者は黒板に落書きを。

「先生がきたぞー」「ドタン」「バタン」「イテュー」ここで我がB組の大將佐々木先生が「カタコト、カタコト」とやってくる。

「ガラッ」「シーン」と一瞬のうちに静まる(これも各人の心がけの良いせいかな?)ここで大將登場。これが我がB組の朝の状態だ。

このへんで我がB組の自慢話を一つ二つ。まずクラス対抗、賞状は最後のどたん場で獲得した二枚限り。しかも二枚とも第三位。

そのうちわけは、男子一回戦楽勝、二回戦、惜しくも相手の楽勝に終わった。この事から、我がクラスは男子で持っていることがわかるであろう。次に成績の方は他のクラスの手前、書かない方がよいという結論に達したのであります。

Next ヒール(昼)メシ

飢えた野郎どもが一、二個のパンのために、目の色をかえて飛びかかる姿、また、食べているときのガツガツした所は天下一品である。午後の授業は、昼食を取って満足しているせいか、午前程さえない。だがよく笑う。

最後にわれらのクラス二・Bは、美男と美女とバツグンにいい男の佐々木先生の合計40名で構成された、三枚目のクラスなのだ!!

コレデオシマイ

一学期

始業式の日担任の私がまだ着任していないので、二年B組に入ってきた四十一人の皆はどんな先生が受持ちになるのか不安だったね、今先生が思い出してみると四月七日の新任式の時、一番大きく目を見開いて壇上の先生の顔を見つめていたのは君達四十一人だったよ。真剣できれいな目であったよ、一緒に勉強が始まったが、皆は相当に遠慮がちであったよ。級も変ったし、先生も変った。級の人との話しも、心の中もまだ落着かないのがみられたね……。

二学期

夏休みの生活はそれぞれ楽しかったようだね。一生懸命水泳をした人、クラブで頑張った人、遊ぶので愉快に毎日を送った人、黒く、たくましくなったが、勉強が思うように出来ず不安そうな顔……。しかし皆で遠慮なく思った事を話そうようになったね。時には対立する意見が出て真剣に腹の中にある事を出し合えるようになった。皆の性格も解って来た。楽しい学級になって来たね、おし

やべりや笑いが充満して来た。

三瀬君と長尾さんの転校、ちょっと淋しかったね……。

三学期

二年最後の学期、全員が良い所を出して、頑張る学期だよ。



女尊男卑

二年D組

D組の四十名をたたえる

門脇先生

おうい雲よ、ゆうゆうと馬鹿にのんきそうじゃないか、「テストはいった」。「今日だぞ、おぬしなかなかやるな」Big smiles いつも笑声がたえない。二年D組の人間である。

Butその数日後「ワッッ百番下がった」。「私なんか下がりようがないわ」とか……今様に皆そろって下がるのはD組の団結力のたま物であろう!! One more 他におとらないのが協力の心だ。テストなどはその良い例である。皆助け合って……。

我が担任門脇先生を紹介しよう。山のおなたの美人(自己満足の浅ましさに安心したれ!!)英語を教える時の目つきが又にくい。

My class introduces (絶対失望することまちがいない!!)

one 男子40名で結成されている(戸籍上女がごくわずかしいる)

two 女尊男卑(戸籍上の女天国)「ほんとだ、か?」

three 努力家、勤勉家でない(例外多数)

four 議長玉井新吾のごとく副議長速水アユ子のごとし(これは絶対)

対にありえない!!)

一成績紹介 運動会二位(男子二位、女といわれるもの番外)

水泳大会三位(男子三位、女といわれるものなまいきにも二位)

合唱コンクール番外(審査員の耳がトラホーマーにかかっていた)

球技大会男子一位(女といわれるもの番外)

おことわり 美女よ許せ!!せめて私だけでも。……私を許すならば…… やはり最後に一言!! All the girl is fall down !!

男子二十二名、女子十八名非凡ならぬ担任の慈愛の許に日々を大過なくあけてくれている四十名の生徒。朝の「おはよう」の挨拶からおしゃべり開始、一日中あきもせず帰りのHRへと移行する。「昼食事に立って歩くのはなぜでしょうか」「掃除当番をさぼるのはなぜでしょうか」「なぜか、なぜでしょうか」に一日の反省と担任のくどきがくり返される。学級の緊張感と成績カード授与の時のみ。

優秀児は自らを任じているのか、回りから要求されているのか得てして孤独である。幸いなるかな孤獨児と呼ばれる者一人もなし。しかし、家族エゴイズムによる自己中心型多し、寒風の訓練なし、食事ぬきのガリ勉なし、無報酬の勤労に笑顔なし、心身共に虚弱児多し、担任のくどき「教師を長くやりすぎたようだ」担任の聖なる欲望「まだまだ教壇にサヨナラはいえない」お義理にも魅力ある学級とはいえないが、一つだけ四十名を信頼する遺産あり。籠球男子

学年一位、あの時の感激は君達と共に忘れない。君達をうとんじる心、そして私に最大の裏切りをして落胆させられた時私は失望と悲哀の上にあの感激を樹立しよう。

君達をよくもこの私に幸せな一コマを刻みこんだものだね。どうも親ばかりは困るね。何もかも知っていないながら。D組の諸君の健康と誠実を心から切望して。



二・E株式会社

二年E組

考える葦

萩原先生

「春が来た、春が来た。」耳なれたメロディは、緊急事態発生のサイレンである。わがクラス全部合わせて40人の中小企業。勤務時間の真最中、二・E組の社長、萩原ハル先生の突じよの出現に社員一同おおあわて、やれやれ毎度のこととは言いながら遠路はるばる出張とは。「諸君、まじめにやっていたかね。ジロリとにらみをきかして、美人な社長。「ハリー」とケロリ顔のサラリーマン兼サボリマン。わが社のモットーは、ハル社長名言の「わっさ、わっさやること。」につきる。

この辺で、わが社の業績のほどをごひろうしよう。まず、社員の優秀ぶり。職場風景ならぬ、授業風景などは、ブルーリボン賞ものではなからうか。うらめしそうな目は窓の外、「〇〇君今の間に答えなさい。」われらが、勇士すまし顔でいわく。「こうこうで、こういうことになります。」と、答える。もつべきものは、近所づきあいかな？

そのせいか集めた賞状、ざっと七億枚（なんかへんだなあ）なしるコレクションにしているくらいですから……

それはさておき、のどかな仕事風景をのぞいてみると、ウーマンパワー（訳、女性上位）の圧力にしいたげられる男子社員22名、彼らの上にのさばるB・G、18名。

勇者たちの結成であるわが二・E株式会社の前途はいかに……。

結果がどうあろうと「ワッサワッサやる」負けたら次のことを考える。我が人生のモットーをそのまま二Eの純真な生徒に押しつけて早や八カ月、文句も言わずよくなびいてくれている。（しかしなびいているのは考える葦なのか疑問に思うこともしばしば）この頃やっと担任の良さを分ってきたようだ。コチャコチャ、メソメソしたことは大嫌いなことを知っていて何とか意に添うよう努力している感じが、何も言わずとも目を見て教室の空気を変えてくれるところによく出ている。運動も勉強も両立させて楽しい生活を自分で造るんだというファイトを持たせたいが、今のところ女子は運動では抜群、勉強は誰かにまかせつきり、男子は実力をエネルギーに変えるべく努力中で表には現われてきていない。ともあれ、出来が悪ければ悪いなりに可愛い親心と相通ずる我が心。毎日の生徒の心がけ、成長がどれほど楽しみなものであるか。期待を裏切らないでほしいものである。そして最も大切なことは、集団生活の中でいかに自分を活かすが、人間らしく生きるために基礎づくりのこの中学生時代をどう過したら良いのか。

「考える葦」になることだと思ふ。担任の希望も兼ねて一言だけ学級の横顔を。



昔、ムカーシの物語

二年F組

時代——江戸。場所——職員室から遠くはなれている。五稜郭タワーが遠くに見える。まず城の中をのぞいてみよう。保坂將軍(野武士)のもとに三十九人の大名と奥方がいる。

きまり——二・F諸法度

一条——意欲的な学級(ムッタクタヤル)

二条——きびしい学級(タラツカナイ)

三条——よく話す学級(つねにヒトコト)

四条——よく聞く学級(シンリはケンキョに)

年貢——たまに国語の宿題あり。

鎖国——まったくなし。とにかく気軽です。

石高——業績。必死の思いで六枚獲得。

大名(男子)——居眠り、早弁、ガリ勉、読書家、ピエロ、落語

家、三枚目、やぶ医者、べてん師、ミスタージャイアント、

コウタロウ等。そして、ちよっぴりハンサム。

奥方(女子)オシャベリ、スズメ、浅岡ルリ子、ヒステリー、女

子プロ、女流小説家、女性解放運動家等。そして、ポイン

コイン、ナイン……イジワルやめて。

將軍(野武士)だちより長い足。手がぎるより長い手。いっ

ぱつくらったら完全に気絶。いっつもにここムッタクタ。

タラツイテイル。さあて、舞台装置完了。

全力投球せよ

保坂先生

春四月、二ノF組誕生。ひととき大きな声で私はば声を発し、これひとつに君たちの調教に努める。そして、ことある度に「ムッタクタヤレ」「タラツカナ」を叫ぶ。だから、君たちから「オッカネエゾ」といわれるのも当然。初夏六月。互いに心も通じ、学級対抗で大いにハッスルする躍動の美に感動する。秋十月。少々男っぽく、女っぽくなった君たちに落ちつきがでてきて、まずまずと思うことしばしば。合唱コンクールもそうだが、球技大会もよく頑張った。チーム・ワークを要する呼吸の一致した小集団の敏捷な動きにはまた格別のスリルと美がある。私は色々な行事の度に、君たちの若さと力と個性を讃美してきた。そして、それらの生命力が教科学習の面にもあらわれてくれることを大いに期待する。だが、一個人の集団の内的成長は解りにくい。初冬十一月。君たちはまだまだ全力を出しきってはいない。余力をたくわえていることだけはわかった。これからの年月に自分の内面を広く美しく充実させるだろうことを期待している。外はすっきり雪にとざされた今、過ぎし一年をかえりみて思うことは、やはり(ムッタクタヤレ)だ。目的を達成するために肝心なことは理屈ではなしに実践すること。全力投球することだ。そこに人間の進歩がある。



先生なかせのクラス

三年A組

我がクラスの担任の先生は、通称「ガンちゃん」の異名をもつ竹内巖太郎先生でとても心の広い先生であります。将棋五段の腕前のわりには気がせわしく、机の間をやすむひまなく、行ったり来たりよくその途中でカバンに足をうばわれてパツタリ……前へたおれそうになることに二、三度。昼食時、ガラリと戸をあけて入ってくる。とまずお茶をすすってからあっちこっちをさまよい歩き時には鼻が弁当につきそうになるくらいそばによってきて「うめえか？」という。そういわれてうろたえた生徒が四、五割もいるとか。

生徒のほうはとても明るく開放的である。まず授業が終わると男子は早々とストーブを陣取って勝ちほこった顔でにこにこしている。また昼食時は厚生委員がパンを持ってくるやいなや、我が男生徒はパンのまわりにむらがりすさまじい争奪戦をくりひろげる。このようにもみあいをしているうちにカゴをひっくりかえしたこと数回。ひどい時にはパンや焼そばが袋や容器からはみだしてしまつたこともある。女子は特にめだつ点はなく一日を雑談で過ごすようだ。(著者は女生徒には感心がない?)

最後に授業風景をみてみると、ある教科ではとてもおとなしく、またある教科では先生を生死の境地に追いこんだり(?)。とにかく先生泣かせの(?)クラスなのだ!

三Aそれは未来のクラス

竹内先生

私はうぬぼれが強い人間なものですから、自分のクラスの生徒のことは大変良く見えるのです。学習に関しては意欲的、積極的だし生活態度も明るくのびのびしているななどと思つていきます。けれども灯台もと暗しとか親の欲目などと古人が教えているように、きっと私の目のとどかない所では、結構怠けたり、かんばしくない行為をしている生徒もあるのかも知れません。

性格が男子と女子でははっきりちがいますね、男子は真面目でキチツとしていけるといふような優等生タイプの生徒は少なく、荒削りでやんちゃなきかん坊が多いものですから、将来の大型ばかりだと期待していますし、反対に女子はしつやかで控え目なかわいらしいお嬢さんが多いものですから、将来はきっと良いお嬢さんができあがるのではないかなあと楽しみにしています。

自分がだらしない人間なものですから、生徒に対してもあまりきつく言うこともなく、何となくざわざわした落ちつきのないクラスのようにも見えますが、無軌道というのではなく、手動装置で十分修正しながら目的地につける可能性をもった宇宙船というのが私の三Aに対する見方です



ただ今極異常

三年B組

話し合いの学級

進士先生

極異常度97% 3%は先生によってカバー。

その一、担任の先生殿の姓は、神士継昭、三B神士大名神様なのだ。
その二、チームワーク大量欠乏(〇)非チームワーク)どんな組でも
微量は、あるも?の??? (かな)?

その三、だがだがなぜか、ひょんなところのチームワークと言うか
X攻撃と申すか、悪玉攻略、頭脳AND腕力、まあ早い話
が、悪たれ大僧を悪党がしずめることに微量のチームワー
クのほとんどがつかわれてしまう。

その四、女子頭領の強制的「Miss」によって、たえず女尊男卑な
の。スビズバー ハテ?

その五、かといつてなにも女子だけが……やっぱり、かもしれない。
キータスケテー今のは作者(男)のヒメイなり。

その六、このような環境で、ふてぶてと生活を営んでいる作者の努
力には、穴のあいたバケツみたいな、涙ぐましいものがある。
(作者一人が異常かもしれないが)

まあ一口にいって三Bとは(前文には書いてないが)なんとなく
息が合って女子はやさしく、かつ優雅で、男子はひん弱で、かつ知
能的(ずるい)な、全体的におちつきのない、先生が一人でから回
りをしているような、歯ごたえのないやつらばっかりいやがる。そ
して、こういう女性、男性が将来何になるか、およそ、だれにもわ
からない想像を絶する深いなぞである。



現在のあなたは過ぎたことを振り返るよりも、あすへの歩みの
創造にかかっていることでしょう。歌の文句の「わたしの過去など
知りたくないの」かな?それならば、あなたにとって、この二年間
は空白になるでしょう。私が考えるにはあなたは貴重な体験をした
と思います。あなたが二年E組の教室に入った時の様子を思い出し
てほしい。あの時から、こんなにも毎日の自分自身の言動やみんな
の中での自分について考えさせられることになるのは想像もしなか
ったと思います。このために、ここから逃避したくなったり、過去
を忘れたくしょうがない時があったかもしれない。現に、自分
や学級の問題に真剣にとり組めずに逃避してしまった者もいたでし
ょう。でも、あなたはよく辛抱して「話し合いの学級」につきあっ
てくれました。ほんとうにご苦労さまでした。どうぞ、これからも
話し合うことの価値をもち続け、あなた自身を肥らせ、あなたをと
りまく友人にもよい刺激を与えて、その価値を広めてくれればよい
と思います。いつの日にか、あなたととも話し合い、貴重な体験を
した友達や、話し合いを大切に
する友達に出合おうと思います。
その時には大いに歓談し、価値
をみい出し、あすへの歩みの創
造の糧としてください。

走れ、走れⅢC

三年C組

越えてる弟、越えてる妹

斉藤先生

「得点三〇〇・五、男子第一位、女子第一位、総合第一位、三年C組。」「ワーツ」三年C組の歴史は、三年の時に劣らず輝かしい幕二を開いた。戦いの日々を思い起こさせる八枚の賞状。授業中ねむり魔がしのびよってきた時、チラリと黒板の上を見ると、賞状がグットにらんでいる。一瞬に睡魔はふき飛び女子バレーの身をさいなむようなくやしさがこみあげてくる。天下無敵の我がクラスも、強敵D組には無残にも敗れ去った。汗と泥にまみれた猛練習に血と肉を使い果たし（その割には……）。しかし、飛びあがらんばかりに喜んであがったのに……。しかし、飛びあがらんばかりに喜んだ事もあった。二年生の時には六位争いをしたのに、今年はどうしたことか、合唱コンクールではクラス全員の頬をつねって歩いたうそのような優勝。お馬君のイナナキ。ゴリラさんの低音。子豚ちゃん的美声。合い間に聞こえるボンポコボン。去年にくらべ一段と磨ききのかかったハーモニーが会場を魅了した。太さと長さがカンバラアンスな骨体美の美男子、彼を陰であやつる美女。二人のマネジャーの呼吸の良さが優勝へ導いたのだ。しかし忘れてならないのは、指揮者のバックスタイルの良さ、ふられるタクトに口を合わせた珍歎達の顔、顔、顔。「走れ、走れ、ⅢC!!」

だが動物園のⅢCは自動的に消滅するのだ。当局は一切関知しない。しかしⅢCの魂は一人一人の心に強くやきついている。この心が21世紀の日本を背負うのだ。



器良よしで愛嬌があり、助け合う優しい心の持主、すべてが兄貴を越えている。強いてあげるなら、頭脳の働きは大型晚成型、がそっくりだろうか。そんな弟、妹の集まり三年C組。彼らは、事ある度に抜群の能力を発揮する、練習でビリだった運動会の百足リレー、一斉にゲートインしたとたん、我がクラスの可愛子ちゃんの茶色い声。ここで男をあげなきやと本命をよせつけず見事大穴。兄貴のであるまくなし。その男女の絶妙なコンビネーションが彼らにとって誇りなのだ。都会的センスを身につけている反面、物事に食いついていく力強さでは、ショボン。兄貴にとっては気がかりだった。しかし、山田・館山両リーダーの努力。自分もクラスの一員なのだという全員の気持が牛歩ではあるけど克服してきた。第一位の賞状七枚出しても、クラスの手助け、励ましの表われ。校内放送の学級訪問を聞いて、「しめくりは三Cでないと」なんて、兄貴を喜ばす。何枚かの写真、楽しかった修学旅行の八ミリを見ては、全員落第させたいと思ったりもする。

オヌシ達は、「シー・ヤメテ!!」
と言うだろうナー。

いつの日か、この五枚第10号を手にも、全員顔を合わせよう。

われら三D

三年D組

笑いありき

金田先生

—その一—「男子の信条」

第一条 必要に応じて団結し、その他はいっさい自分より優れているものをお互いになし合うべきこと。

第二条 授業中は静かにして（居眠り？）休み時間は瞳をキラキラと輝かせてエネルギーを発散させるべきこと。

第三条 女子を尊敬し、かばい、助けるべきこと。
—その二—「女子の信条」

第一条 学校ではいたって少食家のごとくにふるまい。家に帰っては平均？杯は食をとるべきこと。

第二条 男子を傷つけぬよう常に本心を押さえ、押しつぶしたり鼻息で飛ばしたりすることのなきよう、気をつけるべきこと。

第三条 男子の誘惑には絶対負けず、勉強一筋にあたるべきこと。
—その三—「われらの信条」

第一条 端の人をうらやましがらせるため、無理をしても男女仲よくし、先生を敬っているごとくふるまうべきこと。

第二条 授業始めは合図によりドタドタと静かに席につくべきこと。
第三条 担任と議長のことなら、たとえどんな下品なこと？でも、まねをすべきこと。

こんな信条がいつの間にかつくりあげられた三Dです。そして、栄光に輝く八枚の賞状よ、「縁の下の力持ち」となられた担任金田先生に、われら三D一同、つくづく感謝するのであります。

×月×日 金曜日 6教時 3D 国語 久しぶりに作文を書く。

いつになく大人びて神妙に考えこむきみらの姿には、いやでもやがて来る受験と卒業の日の間近かさを感じさせられる。が、こんな時を除くと、よく頓狂な声を発して笑わせる友がいた。同時に、担任の気持ちをいち早く読んで、みんなに忠告するまじめな友？も。そしてニヤニヤ顔がほころぶ。時々かち合うはればあった目は、もちろん深夜勉強のせいに違いない。

3Dのきみらを紹介するのに、男子は野性味あふれて活動的、担任の叱責を甘んじて受けて喜んでゐるし、女子はそれを傍観して、それとなく母性本能ぶりを発揮するといったらどうであろう。

教室の壁面には、きみらのありし日をものがたる賞状がならんでゐる。2Cから3Dへ、きみらはたしかにグンと成長した。何かの時には、ひとりひとりの力がフルに生かされて、クラスの力となつてあらわれた。それにもまして、いつも何でもかでも笑いにかき消す明るさがあった。

笑いとまとまりと—それこそ、きみらの最高のすばらしさであつたらう。

その3Dともいよいよ別れである。きみらはまた、新しい生活に元気に歩き出すであらう。あの笑いとまじめさをもつて。



サンイーランド

三年E組

○構成 岡本首相のもとに各大臣がひかえている。人種は大きく分けると函館族と亀田族に区分されている。函館族は古典派や近代派に分けられる。時には叛逆者が問題を起すが強く団結している。

○目標 三Eランドの地位を高めよう。

○現状 授業の開始はみんなを代表してM君が最大出力90Wの挨拶で先生を迎える。ある先生は「むし起すからやめてくれ」と言っていました。授業中にトイレが近いせいか教室内に悪臭が漂う。中には感ちがいのたのか「だれたくあん持ってきたのは」と騒ぎだてる者もいる。いずれにしても臭はかきたくないこれらのもの。議会は定数と賛成反対者の合計がいっちなないので首相と議長は手をやく「なんか変だなあ」

○信条

- 一つ、異性に関心があるのは良いが、ほどほどにして十分鏡と検討しなければならぬ。
- 一つ、宿題は必ず自分の手で人のをうつさなくてはならない。
- 一つ、成績は平均以下でもクラスの20番以上でなければならぬ。
- …この信条に反感をいだくものでてくるはずである。
- 一つ(女子のみ) 男子には常に優しくふるまわなくてはならない。実体「あら、学生服ほころびてるじゃないあたし縫ってあげる。ぬぎなさいよ」しかし縫目の大胆なものには定評がある。
- 一つ(男子のみ) つとめて女子には親切にしなければならぬ。

羽ばたけ諸君

岡本先生

中学生生活最後の学年、スポーツに、学習にと力いっぱい努力を続けてきたと思うが、もっとも大切な仕事である学習については、はたして、満足すべき成果を上げることができたであろうか？

答えは……………。

クラスの個々の生徒について考えてみると、それぞれが、すぐれた面をたくさんもっていて、大変好感がもてる。

合唱コンクールにおける男女のすばらしい協力ぶり、あのような大きな輪へと結集できる力をもつ君達であったのに、それを生かすことのできなかつた担任、責任を感じている。

二年間の君達とのつきあいの間に、己の頭の上が、ずいぶん涼しくなったのは、何故だろうか……………。

目に見えて、私よりはるかに、たてよ成長してしまつたヒゲ面の男ども。おシャレが身についてすっかり女らしくなつたレディ達。そんなみんなの中に毎日すこしときて、今、君達とすこしてきた二年間の短かさを、つくづく感じている。



新しい社会へと、その第一歩をふみだそうとしている三E諸君、丈夫な身体、強い精神力、これらを土台に、勉強も忘れることなく、一歩一歩前進してほしい。諸君ノ大きく羽ばたけ。

三F数え歌

三年F組

反発しろ

蘇馬先生

一つとせ、ひとり残らず聞いとくれ、これからはじまる大レース。
こいつつ大穴だ。(本日の五稜杯本命は三F)

二つとせ、二週間後の席替えを、指おり数えてまちわびる。こいつ
あまちどおしい。こいつあまちどおしい。(数えちゃうからん。)

三つとせ、さからいあくたれふてくされ、かわいげないよな野郎ど
も、こいつあにくらしい。こいつぁリンチだよ。(なんだバカヤロ)

四つとせ、深夜放送に聞き暮れて、朝は眠たい遅刻だよ。こいつあ
眠てえな。こいつああさまへん。(ビバーヤング、バヤバヤ)

五つとせ、いつになったら終わるのか、耳のタコが子を産んだ。こ
いつあおめでたい。こいつあおめでどう。(先生ほどほどに)

六つとせ、むつまじいのか好きなのか、男と女のお話は。こいつあ
おもしろくない。こいつあおもしろくない。(おねしなかなかやるな。)

七つとせ、なんだ意見が出ないのか、HRの酔けさよ。こいつあ眠
たいね、こいつあ恐ろしい。(HRちゆうもんはそんなにあまいも
んやおまへんにやもつとまじめにやれ。)

八つとせ、休み時間になったならリンチにエネルギーをついやする。
こいつあ疲れるね。こいつあ恐ろしい。(しまいに血をみるぞ)

九つとせ、ここの担任いい担任? 頭は青刈り鼻オーム、こいつあお
もろいな、こいつあみられねえ。(みったくないの飛んでいけ)

十とせ、突然お別れ、ごきげんよ。あなたとお別れさみしいな。こ
いつあ悲しいな。こいつあ悲しいな。(わあいやつたぜかあちゃん。



「先生に文句を言う生徒、質問をよくする生徒、こういう生徒は
大好きだ」これが担任としての私の最初の言葉だった。私は何も逆
説めたことを言ったり、言葉をもてあそんで喜こんだりしたわけ
ではない。「いつでもお互いに文句を言える先生、生徒同志の間柄
」 「意見がどんどん出易いふんいき」 こういう教室こそ民主的集団
になれると思ったからだ。「文句をいう人は、文句をいうだけのこ
とをしなければならなくなるだろう。」 「本当に考えて文句をいう人
こそ、自分の文句に責任を持つ生徒になるだろう。」と考えたからだ。
ところで、我が愛する三Fの集団は、前述のような私の期待にそ
えただろうか。残念ながらそうではなかった。三Fの諸君は、私の
言うことを、大変よく聞いてくれた。純情で、従順な生徒が大部分
だと思ふ。(但し、すぐ忘れてしまう。)しかし、純情とか、従順
なんて、必ずしもほめる場合に使う言葉でない。私や、幹部のいう
ことが無理だったら、堂々と反発してほしかった。そしてその話し
合いの中から決められた結論は、大切に守ってほしかった。自分の
権利を主張し、他人の主張もよ
く聞き、自分等の集団がどうあ
らねばならないか、そして集団
の中で、個人がどうあらねばな
らないのか、真剣に考えてほし
かった。

体 育

クラブの歩み

開校九年目を迎えたわが校の体育クラブは着実にその成果を示しつつある。二年連続優勝、三年連続優勝というクラブや、一〇〇メートル中学校日本新記録等。また惜しくも全道大会出場をのがしたクラブも四十六年度は一層の練習を積んで確実にチャンスをつかむにちがいない。ここに汗と泥と涙にまみれた今年の成果をたどってみよう。



11秒0 山本君 100m中学校日本新記録



いつの日か！ (籠球部)



また、来年こそは！ (庭球部)



打倒船見！ (水泳部)



サインはV！ (排球部)



栄光の日はいつか！ (蹴球部)



雨にも負けず、
風にも負けず敵にはマケル 先生もどってー！ (体操部)



▽陸上 部

わが陸上部は、中体連初参加以来、輝かしい成績を修めてきました。そして今年の中体連でも男子はみごと三年ぶり四度目の優勝をなしとげ総合でも準優勝という栄冠を勝ちとりました。でもこの栄冠の影には、部員の地味な練習の積み重ねがあったというのを忘れてほしくありません。今年こそ中体連優勝ということを目指して一生懸命がんばったからこそ勝つことができたのだと思います。そして今、僕がキャプテンとして、後輩諸君に望むことは、基礎からの練習の積み重ねを大事にし、しっかり身につけ、一日も早く先輩の記録を更新できるようにがんばってほしいということです。最後に三年間僕達のよき指導者であった岡本先生に、陸上部三年生一同心から感謝いたしております。(山本敏雄)

▽水泳 部

今年は三年生の部員が少なく二年生がよく活躍してくれた。シド・ズシオフは陸トレで体が

せ、みんな汗にまみれ頑張った。唯ひとつ残念なことは、朝練習ができなかったことである。それでも、練習を終えて家に帰ると体がぐったりとし何もやる気がしなくなるほど疲れる。でもみんなよく練習に耐えてくれた。その結果中体連では男子準優勝、女子優勝という好成績をおさめることができた。女子は三年連続優勝堂々たる成績だ。男子はおしくも準優勝に終わったが、みんなよく頑張ってくれたので思い残すことはない。

▽卓球 部

暗い長い時代が終って、夜が明けた。と同時に日本の卓球は花を咲かせた。私達も、この五稜の片すみで愛する卓球の練習に明け暮れた。朝起きると教科書より先にラケットを靴に入れ、宵開せまる頃、ゲームに負けたく

チャンピオンになった自分の姿を夢みてねむる誰もがそんな毎日を送ってきたのだ。先輩もそして私達も。

息づまる激戦の末、団体女子は、夢にまでみた中体連史上初の三連勝の栄冠を、今、我が手に力強く握りしめている。長くそして苦しかった努力の積み重ねと、熱心な御指導のお蔭である。すべてが終った今、私達は、バトンを後輩諸君に渡した。試練に耐えて技をみがけ、そして心もみがけ。目は世界に向けよ。男子は、地道な努力で厚い壁を破らねばならない。栄光に輝いた女子とて、明日はどうなるのか。私達は、いつまでも五稜の卓球部の姿をみつめていく。試練なくして、勝利は望めないのだ。(小上一郎)

▽野球 部

「無念」ということばだけが、まだ心の中に焼きついていて。それは、最終目標である「道大会への出場 一步手前で自滅してしまっただことだ。七・二三、今まで積み重ねてきたものが、一辺につぶされ消えてしまった感じだ。準優勝、そんなのは少しもうれしくなかつた。泣いても泣ききれないほどつらく、なぜか

涙がぼろぼろ出てきた。そこで、これから前進するためになぜ自滅したかということについて考えてみたい。それは、なんといつても打てなかったこと、相手をあなどったことだろう。現に、光成中とは練習試合に3―2で勝っていたのに……。再三再四、保坂先生にそれについては、いわれたことなのに……。ほんとうに、勝負というものは泣いても笑っても一回きりだ。そこで、一・二年の部員には、もっと打つこととずうずうしさを保持して今年と同じ結果に終わらないようにしてもらいたい。これから先、精一杯の努力とここ数年に築き上げた名譽と心意気を保持して欲しいと思う。「試合に出た以上は、勝って泣け、負って泣け、三年間余りも鞭を持ってご指導して下さい保坂先生・館洞先生に感謝します。」
(村松裕史)

▽ 体 操 部

今年から規定も新たにになり、幾つかの大会を終え、輝やかしい成績を修めた体操部ですが、一年間を振り返って見ると……。

わが体操部は、先輩の築いた伝統を守ろうと毎日練習に励んできました。また、大会が

近づくにつれて、萩原先生の熱心な御指導。そして、きびしい練習に耐え、五稜中の代表として大会に望んだ時の気持ち……。

それは、みんな同じであったに違いないありません。不安、それを乗り越え、演技を行なったみんなの気持が中体連準優勝、道南体操競技大会優勝という、好成績を修められた一つの原因ともいえると思います。また、今年実力を発揮できなかった男子も、来年こそは!!と頑張って練習に励んでいるようです。

来年は今年より他校の選手も演技が上手になってくることでしょう。今年経験したことを基にし、来年は「優勝」「道大会」をめざし練習に励んで下さい。

▽ 柔 道 部

今年の中体連では、第三位という成績をおさめました。この成績に至るまで我々は必死に戦って来ました。一回戦ごとにいい事を言っていたが、その言葉はただの言葉でし

かなかつた。やはり現実には現実であったのだ。諸君!この我々柔道部の苦勞と涙をわかって欲しい。僕はクラブをやっている事はない。それは他のクラブと違って形式的

な規律がなかったためだろう。それにいつも笑いにあふれているクラブであったからでもある。また、顧問の先生がたいへん優しい。その名は藤原先生である。先生は柔道部の象徴すべき人物で、時には優しく、時には恐ろしいおやじのような存在である。

後輩諸君!この偉大な人物、藤原先生をよろしくお願いします。そしてより良い柔道部を諸君の手で築き上げて下さい。(山村恒)

▽ 排 球 部

今年の排球部は男子三位、女子惜敗という成績だった。成績もよくなかったが、それにもまして実力が充分出されなかったことが心残りである。今年には練習不足ということもあったが、それ以上に集中心が欠けていたと思う。たしかに体育館・グラウンドと汗を流してボールとにらめっこをしてきたが、なにかたりないものがあつたような気がする。

三年間練習してきて、たった二日間でその成果が問われ、そこできまるのだからなにかあつけないように思う。終つたあと選手は「もう一度やりたい」という気持ちが残った。試合のあとあの気持ちはわすれたくないも

のだ最後に後援諸君に今までで一番良いチームになるよう努力してくれることを期待し、指導して下さった三十刈・佐々木先生に感謝します。(桑田祥司)

▽ 籠 球 部

わがクラブは、昭和40年度の中体連初参加

以来、一度も入賞したことがない。それは、みなさんもご存じのことと思う。今年の中体連でも、やはり目の目を見ることはできなかった。昨年、女子は強豪深堀中と対戦し悪戦苦闘の末ようやく負けた。また男子は、愛宕中と対戦、これも健闘むなしく敵チームが勝った。おはずかしいことだ。しかし、一、二年の部員諸君ノ君らはこれからが戦いだ。

そして、この汚名に負けてはならない。これからは、新しい籠球部としてまっしぐらに進めノじゃまものは蹴散らし、けっしてそれをさけてはならない。君らは強い。二年間ずっといっしょに苦勞を共にしてきて得たチームワークがある。現に、今年11月の新人戦では男子が一勝をあげている。一回戦の対榎法華戦では27-24、二回戦の対萩野戦でも25-28と二回戦で負けはしたがどちらも内容的には

いい試合だったと思う。男子はクラブ創立以来、純粹の部員では初勝利である。自信を持って、来年の中体連では二勝旗くらいはあげろかわいい？部員たち、たのもし小西先生がガンバレ!!

(照井真一)

▽ 庭 球 部

今年の中体連は、試合に勝つという事のみならず、きびしさを心の底まで教えられた年でした。今でも脳裏には、はっきりときざみこまれていきます。あの苦しかった練習：放課後、日がとっぷりと落ちて、真白いボールが見えなくなるまでやった私達。そして夏のあの白熱した太陽の下で、体中汗を流し練習に耐えました。そして中体連……。

しかし、あのはげしかった練習、自信は無さんにもおし流されてしまいました。残念でした。くやしかったのです。先輩達の伝統が守れなかったから……。いいえ、自分達の力を充分出しきれないうちに敗れたからでした。さて、これからの五稜のテニス部を背負っていく一・二年生のみなさん、今年に残念ながら停滞気味ではありましたが、昨年の部長が言われたとうり「飛躍には限界がない」と着

実に成長し、あのすばらしい栄光をつかんで下さい。

最後に忙がしい中よき御指導して下さい
滝村・田島両先生に、部員一堂感謝していただきます。(百足礼子)

▽ 羽 根 球

今年一年間をふり返ってみると、羽根球同好会として昨年と同じ反省があげられてしまったことが残念です。その一つとして練習に来る人が少なく決まっていること。

それに何をしても「不足」という言葉がついていくこと。予算の不足・時間の不足・練習の場の不足。

しかし、その言葉についていないものは、ただひとつ、気楽に出来るということだけである。一年生にしてみれば、「気楽」というその言葉がかえってものたりないものにしていけるのではないだろうか……。

この羽根球同好会にも欠点ばかりではなくいくつかの利点もあります。

たまたま先生方や他のクラブの人達も来て楽しくやってきました。

最後に、今年練習にくる部員は、おもに

一・三年の女子の一部だけであったが来年は今の二年生にも大いに活躍してほしいと思います。(矢吹真澄)

▽ 登山部

登山部はその名の通り、山に登るための部です。登山は一ヶ月に一回から二回で、その他は、トレーニングをして足腰をきたえたり天気図のとり方、登山技術などをやります。登山は危ないものだと考えがちですが、ぼく達の場合は冬山には登りませんし、ふつうの山に登る時もコースタイム・持ち物などこまかく計画を立てた上、函館市山岳会会長であり顧問の蘇馬先生がついてきてくれるので安心です。今までに登った山としては、駒ヶ岳・横津岳・木地稜山などがあり、キャンプでは、大川沢・横津荘・おんぼ荘などがおもなものです。その中でもキャンプが印象的でした。こんな登山部の最大の悩みは、部員が少ないということです。今までは、先輩が来てくれたのでなんとかりましたが、このままではあまりにも悲しいではありませんか。登山に興味ある人は、どんどん入部して下さい。ぼく達は待っています。(福士正)

△ 蹴球部

ここに我々サッカー部の45年度成績を公開します。中体連(?)位、新人戦(?)位、サッカー部として各クラブに面目ない結果でした。敗因は? みなさんも知っているようにサッカーは、非常に高い技術を要します(我々の練習は技術というものでもないけど)それとサッカーは、勿論一人では、出来ませんチームプレイです。と、当然チームワークの問題が出てくるわけです。もう一つ部員の問題: ……今年はある意味では、めぐまれているといってもいいでしょう。

見てください。その結果がミノル杯2位、新人チームの強さを見せられました。しかしこの大会で2位……十分なものは、ありません。我々部員の胸の内にいだいている全道大会目標とし。これから特訓を始めます。誓いの言葉は、今ありません。しかし、今サッカー部に必要な言葉は「根性」一字です。クラブ員に告ぐ 全員集合!!



文化

文化クラブは体育クラブの外への輝かしさとはちがって内へ内へと発展し、めだたないかわりにひとりひとりに花が咲き実がなる。

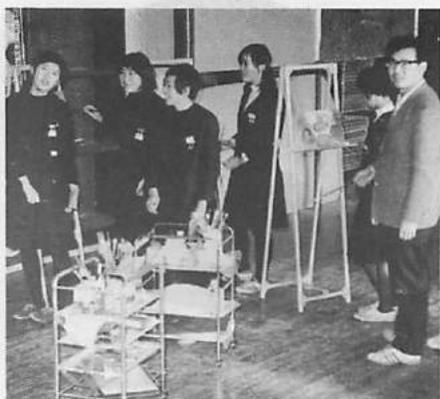
地味な活動の中に個性豊かな研鑽を積んだ今年度の結果をふりかえって見よう。



一瞬、ヒラメイタ（発明工夫受賞者）



美しい声で♪♪ (音楽部)



芸術とは……無からの創造 (美術部)



イノシシを解剖? (理科部)



未来の建築家 (技術部)



人間は何のために
生きるのでしょうか (読書部)



美女ばかりでしょう (家庭科)

▽ 理 科 部

理科クラブは大きく三つに分かれており、温室、キノコの栽培、化学の実験、気象観測、天体観測、工夫工作など広分野にわたって活動しています。といっても、不活発に見られるかもしれませんが、今年の文化祭を見れば活発さがよくわかったでしょう。理科室では化学マジック、キノコの展示、三年下組のクラスでは、第四回の「お化け屋敷。」おもしろいとか、こわかったとか、色々評判も良かったようで、「お化け屋敷」の人氣は年々上がってくるようです。ところで、これを作るまでには、タケや、ダンボールなどをリヤカーではずかしいのも忘れて運んだり、文化祭一日前には、約二百個の机をならべ板でうつけるなどそれだけの苦勞があったかわかってもらえるでしょう。今年の文化祭は、大成功でしたが、来年の文化祭はもっと進歩させるために科学について関心のある人、「お化け屋敷」を自分の手でやってみたい人はぜひ理科クラブにはいり、来年は今年よりもっと進歩した文化祭をやってみたい。

(吉村睦生)

▽ 美 術 部

「美……………」
この言葉は常にわたくし達の心の奥深くに鎮されがちではないでしょうか。たった一粒の砂に美しさを感じてもよい。流れる雲に偉大さを感じるのもまたよい。とにかく真剣にその美しさを感じとりたい。常にわたくし達はそう心の奥底で叫びつづけているのではないのでしょうか。わたくし達は、「美」というものをもっと大切に考えるべきではないでしょうか。わたくし達のクラブ活動は、けっして活発とは言えませんが、それなりにお互いに努力して、真剣にやっつつもりです。しかし一年をふり返って、反省すべき事はたくさんありました。それは、わたくし達にとつて、クラブ人数があまりにも少ないということとは最大の悩みでしたし、残念にも思います。来年こそは、今までに例のないほどの活発なクラブになってほしいと思います。そして「美」というものをより追求し、すばらしい作品を完成してほしいと思います。

(小谷智子)

▽ 音 楽 部

音楽クラブと聞けば、実に堅苦しい感じのする入りにくいクラブだと誰しも思うのではないだろうか。文化クラブは、運動クラブより地味で目立たなく影のような存在ではないだろうか。クラブを選ばず誰しも、活動のほげしく目立つようなクラブを一番初めに希望するのではないだろうか。誰をも引きつける不思議な魅力を持つクラブそれが運動クラブの一番の特徴ではないかと思うのです。それに対し文化クラブでは、その点が短所になり大きな欠点でもある。けれど文化クラブも何かでカバーし、少しずつ(変化)進歩しているのです。カバーしている特徴の中には、部員の一人ずつに暖かく接することができる新しい友情が育つということがあげられます。小さな愛を持ちそれを集め一つの部として活動する。けれど今の音楽クラブには足りないものがある。それは、部員と部員の心のかよいがいいこと。季節にたとえると冷たく厳しい冬のような。来年の部員には味あわせたくない「にがい味」私も幾度かクラブの事で泣いたが、初心忘れず何ごとにもアタック!

(豊岡妙子)

さった成田先生ありがとうございました。

(庄内厚子)

▽読書部

▽家庭科部

女の子なら一度は夢みるウエディングドレス(そんな女らしい人はいないかな?)

成田先生を中心に一応は女子がくるわが家庭科クラブ、全校に三十名程度、しかしまじめにくる人はごく少数(チョットナサケナイネ)この女の子達が一番活躍するのは文化祭。毎日おそくまでかかって作ったペーパーフラワーやリボンフラワーの中には少し形のくずれたのもあったようですが、どれもクラブ員が一生懸命作った傑作ばかりです。

文化祭の前日の準備は女だてらにかならず持って男子顔まけの働きぶりでした。

その努力が実ってペーパーフラワー・リボンフラワーは全部売り切れました。

今年の文化祭も無事終わりましたが、まだまだ充分とはいえない活動でした。

来年こそはもっとクラブ全員が協力し、より活発に、そして今年でできなかったことをどんどんし、進歩のある家庭科クラブを作ってください。

最後にいたらぬ私達にいろいろ、御指導下

▽工 作 部

「技術クラブ」このクラブこそ一番得をするクラブだと思う。まず技術室に置いてある木材は、先生にことわっておくだけで「ただ」ノで自由につかってよい。スピーカーボックス、テーブル、飾り棚、額縁、マガジンラックのようなものをつくる程度の木材ならたつぷりある。それから機械だが、これも先生にことわりさえすればよい、ただしこれは気をつけてとりあわなくてはならない。まだあ

る。それは、釘、接着剤、とのこ、塗料などが全部「ただ」ノこんな得をする良いクラブなのに、どういうわけかクラブ員10名で、一

年0名、二年9名、三年の1名というような状態だ。これだけの人数だから文化祭での作品の少ないのもむりはない。第10回文化祭ではロボット、写真、模型飛行機などを取り入れてみたが、あまりうまくいかなかった。

これもみな部員数の少ないためだと思ふ来年こそ、新一年、現一年のみなさんに入部を希望します。(増田修一)

本堂先生を中心に十名程の読書クラブ。この一年間をふりかえてみると、人の集まりなどの都合で守られなかったのが何より残念でならない。他校の読書クラブはどうしているのだろうか。一度参観に行こう、情報交換をしあおうと話し合ったこともあった。

一学期の話し合いでは、茶川の「鼻」森鷗外の「高瀬舟」などの話し合いが印象に残る話し合っただけでなく、プリントしてみなにくばったことも忘れられない。

夏休みの集会では会費を出し合って茶話会を持った。正しい交際のあり方、怪異談などもおもしろかったし、もちろん、ファンタやおかしもおもしろかった。

二学期には、韓国の少年の日記「エンボギの日記」をまわし読みして話し合いをしたし、壺井栄の「坂道」についておそくまで話し合ったのが主な足あとである。

来年は今の二年生を中心にして、もっと、クラブの年間計画をしっかりたてて、活動して欲しいものである。それに、クラブの活動のようすを他の人々にくわしく知らせ

て、部員の数をふやす必要もあると思う。読書クラブの充実を祈ること切なるものがある。

(小川) ー ー ー が、新しい二・三年のみなさんの協力によってさらに成長させ、りっぱな新聞局にしてほしいと願っています。(藤井素子)

▽新聞局

▽放送局

五月に新しく始められた私達新聞局は、局長を中心として約10人のメンバーが活動して

来ました。男子がとでも少なく、とてもやり

にくい面もありました。まだ新しいせい

か、何回か発行された新聞も「読まざら

い」とか、「おもしろくない」などと、い

ち不満も多かったことと思います。でも、

そのような点が多いにもかかわらず、毎

日に読んで下さったみなさんには、ほん

とに感謝しています。――修学旅行の

記事から始まり、みどり学園の訪問や記事の取材

など、とにかく一生けん命でした。時

には、とてもいそがしくて、「なんで

こんなことひきうけたのかなあ」そ

う思ったこともありまして。でも

それを乗り越えて、一つの新聞を作り

上げた時の、あの喜びと感げきは、忘

れることがありません。……このよ

うに、いそがしくもやりがいのある

おもしろい仕事だったと思います。私達三年生はもう卒業してしま

「会場の皆様、G H K サテライト・スタジオにようこそおいで下さいました……」

五稜中学校放送局にとって画期的アナウ

スでした。第10回文化祭に協賛し、「魅惑

のリズム」「思い出」と、私達は初めて公

開番組を組んだのです。前日は会場設

営、機器の調整、原稿の下読み、と暗

くなるまで熱を入れました。でも、

本番では汗びっしょりにな

りながらのアナウンス、ミキシング

にもかかわらず、期待はずれのでき

ばえ、公開番組のむずかしさを思

知らされたのです。しかし私達

G H K 局員は、失敗によって学

び、全校生徒の協力、多くの先生

方の力をお借りしてより充実した

番組制作に力をふりしぼってき

ました。学校生活について、皆

さんに真剣に考えてもらおうお

手伝いをしたい、少しでも、く

つろいだ時間を持ってほしい、

これが私達 G H K 局員全員の目標な

を作りあげていきましょう。(山田隆嗣)



— 特 集 — 現代中学生気質

現代は多様化の時代だと言われている。人間のものの考え方・生活様式・社会風俗等どれ一つとりあげても画一的なものはない。

中学生の気質もまた、多様で変わりつつある。この特集記事はそのほんの一断面に過ぎないが、私たち中学生の生活の実態や、ものの考う方を知ってもらおう手がかりになっていただければ幸いである。

深夜放送

よく聞いている 83人 (男59、女24)
 ときどき聞いている 124人 (男58、女66)
 少し聞いたことがある 64人 (男34、女30)
 全然聞いたことがない 117人 (男47、女69)

これは何の結果だろうか。生徒会がまとめた深夜放送に対する388人のアンケートの結果である。これを見てわかるように、生徒の半数以上が深夜放送を聞いているのである。また聞いている人の中でも聞きたいと思っている人が多く、全く興味を示さないのは、全体の二割ほどしかないのである。

大部分の生徒が関心を持っている深夜放送の魅力とは？これをさぐり出す前に、聞いている人の意見を聞いてみよう。「そんなにおそくまで起きていられないよ」(二年男)これが代表的な理由。では聞いている人のことをどう思っているのだろうか。「聞きたければ聞けばいいのだ」(二年男)というのと「ばかみたいだ。気が知れないな」(二年男)に分かれる。後者の意見がわりあいと多かったが、それは一回も聞いたことがないからであって、少しでも聞けばその魅力に圧倒されるだろう。(筆者は、深

夜放送フアンの一人なのだ。まだ聞いている諸君、ぜひ聞いてみたまえ)とところで、現在聞いている人の考えを聞いてみると、「おもしろいから聞いているさ」(三年男)これが大部分をしめている。しかし、これが真の理由なら、現代の中学生はかわいそうである。深夜放送にしか喜びを感じないのなら……。

そのほかとしては「勉強のあいまに聞くと気がばらになる」(二年男)「一人で勉強と結びつけて聞いている人が目立つ。ほかに、「将来のための教養を高めるために聞いているんですわねえ」(三年男)という理想的な聞き方をしている人もいた。そしてアンケートの結果では八割の人が深夜放送は自分にとってプラスになると答えている。

では、彼らはどのように聞いているのか。何時ごろまで聞きますか？

一時まで 62人 (男35、女27)
 二時まで 73人 (男29、女44)
 三時まで 46人 (男34、女12)
 四時まで 22人 (男15、女7)

予想以上におそくまで聞いている人が多かった。特に男子がおそくまで聞いているようだ。

そのせいか次のような結果が得られた。
 次の日はどうですか

非常にねむい 18人 (男11、女7)
 ややねむい 111人 (男55、女56)
 影響なし 81人 (男50、女31)

ややねむい人が多いが、そのためか授業中うとうとしている者が最近ふえたようだ。(眠ってすごしたほうがよい授業があるのかもしれない)次の日に負担がかからないように計画的に聞くことが大切だろう。

何を聞きますか

アタックヤング (STV) 126人
 オールナイトニッポン (STV) 117人
 ヤング26時 (HBC) 109人
 ミッドナイトスパーク (HBC) 56人
 バックインミュージック (TBS) 30人
 セイヤング (文化放送) 27人

この結果からわかるように、みんなの聞いている番組の大部分がローカル番組であるといふことは残念だ。もっと視野を広げ、たくさんある番組から自主的によいものを選びだして聞こう。どうもみんなは、近くの放送局から流れる電波をそのまま受けとって満足しているようだ。(ラジオの感度が悪いのかもしれない)わずかであるがバックインミュージ

ック、セイヤングを聞いている人がいるのは喜ばしい。(深夜放送には、このほかにミッドナイト東海、ABCヤングリクエストなどいろいろあるのだが……)

好きなパーソナリティベスト10

第一位 村上 元昭 (モッチャン)

第二位 白馬 康治 (ホワイイトホース)

笹原 嘉弘 (ササッバラ)

今仁 哲夫 (テッチャン)

第五位 斉藤 安弘 (アンコー)

亀淵 昭信 (カメ)

金子 悌介 (ピン助)

松川久美子

第九位 上居まさる

第十位 黒沢久美子

パーソナリティにしても、全国的にみれば、もっとすぐれた者がいるだろう。

さて、このへんで筆者の深夜放送に対する意見を述べさせてもらおう。深夜放送とは何だろうか。筆者はこう考える。それは、僕ら若者の心が集まる広場だと、ところで現在の大部分の深夜放送と呼ばれる番組はどうだろうか。ただレコードをかけ、リクエストカードを読んだり、人気をたもとうとして各種のプレゼントを行なったりしている。このため

みんなは、何とかカードを読んでもらおうと必死になって、授業中までも書くものもでてくる。カードを読まれることにより、自己満足を感じるのだろうか。これで喜ぶのは郵政省だけである。これでは表面だけの若者の集まりであり、真の意味での深夜放送とはいえない。わずかに五百円ほどの特別手当で自局のアナウンサーをパーソナリティにしている

ところ無理があるのかも知れない。しかしバックインミュージックこそ真の意味での深夜放送だと筆者は思う。パーソナリティも著名人をあつめ、自分の意見をはっきり述べるし、聴取者の意見もとりあげ、若者の考えの発表の場となっている。その範囲は、日常生活によくあることから、政治的な思想までさまざまであるが、非常に勉強になることが多い。もっと深く考えてみたい人は、「もう一つの別の広場」という本(プロンズ社)を読むといいだろう。いや、その前にバックを聞いてみるべきだ。(筆者はTBSよりマネージャーをもらっているといううわさがチラホラ聞こえるが、ちなみに筆者の好きなパーソナリティをあげてみると、野沢那智、彼の手紙の読み方はバッグンである。白石冬美、彼女の〇〇〇〇さは有名である。北山修、榎井論平、

永六輔、彼らの考え方には共感するところが多い。

以上、筆者の個人的な意見を書いてしまっただが、反対意見も多いだろう。それはそれでいいのだ。深夜放送を通して批判的な目を養うこともできるのである。

さて、これほどまでに僕たちをひきつける深夜放送の魅力はどこにあるのだろうか。あの生徒はこう言う。「司会者の巧みな話術によって僕たちに近親感を与え、深夜の勉強の孤独感をやわらげてくれること」(三年男)

またある男は「ピョンピョンゲームの解説をすることですねえ」と言う。(筆者にはこの意味がよくわかるのだ。まさに彼らの言うとおりだ。前にも書いたように、彼らにとって深夜放送以外に自分の欲求を満たすものがないのである。そして、その欲求不満を解消するのが深夜放送なのである。そのことの悪いにかかわらず、深夜放送というものは中学生の生活に密着した存在になってきているのである。

筆者も深夜放送の聞きすぎで眠くなってきたでやんす。もうこのへんでやめるでやんす。アンケート、インタビュにご協力のみなさん、サンキューでやんした。結果報告おわり(筆者はナニをききたいのだろうか)。

男女交際

皆さんが最も関心を持つもの一つに「男女交際」があげられると思います。そこで、我々総務局は、インタビュアーやアンケートを通して皆さんの考えをさぐってみました。

一現在好きな人がいますか？

▲アンケートの結果▼

男子193人 女子194人中

○いる ○いない

男 110人 男 83人

女 128人 女 66人

二現在の状態 二をぜいないので

は？ すか？

○両思い ○理想の人がい

ない

男 39人 女 33人

○片思い ○興味がない

○必要ないから

男 70人 女 94人

○いないからい

ない

男 17人 女 21人

○欲しい男 23人

女 17人

○欲しくない

男 68人 女 67人

四 次のうちどれが好きですか？

○個人的な交際

男 104人

○グループ交際

男 68人

○どれも嫌い

男 45人

五 あなたの理想の人は？

○男 子◎(ごく一部)◎女 子◎

○やさしい人◎かわ

い人◎大和撫子のよ

うな人◎髪の良い人◎

気軽に話せる人◎明朗

な人◎親切な人

六 理想の男女交際は？

◎男 子◎(ごく一部)◎女 子◎

◎堂々としていて中

学生らしいもの◎「柔

道一直線」の「直也と

道一直線」の「直也と

ミキッペ」のような感

じのするもの◎勉強の

邪魔にならない程度

ののびのびとしている

もの◎友達としての、

交際

それでは、上にあるアンケートの結果を、もう少し詳しく考えてみましょう。

まず、好きな人がいる という人が、387

人中238人と半数以上に達しています。けれど

もその中で「両思い」という人は、72人しか

いません。これに対して「片思い」という人

が164人もいます。つまり、好きな人がいても

その人とは、片思いにすぎないという人が、

半数近くもいるということです。ちょっと残

念なような気もしないではありませんね。

けれども、この世の中には、こんな素敵なこ

とばもあるんですよ。「愛されることより、

愛することのほうが幸せだ」「片思いの人の

もがっかりせず、大いにがんばってください。

次に、勉強の邪魔になりませんかとい

う質問に対して「なる」という人がごらんの

通り、そんなにいません。さすが、五校の生

徒だけあって、邪魔にならないようですネ、

(そうとう、人間ができてくるようです)

さて「いない」という人のほうをみてみる

と、「ぜいないのですか？」という質問に

対して「理想の人がいない」というのが大部

分を占めています——「ちょっと変ですね

なぜかという、我が五校中学校には、素晴

しい先生を始め(チョットおせじ)カッコイ

イ男子や(ナヌック)素敵な女子ばかり(か
なりのおせじになりました)いるじゃありませんか。
——いかがなもんでしょう。

いない という人達に対して、欲しい
か 欲しくないか ということを聞くと、
以外にも 欲しくない というのが多かった
のです。これはどういうことかという、

(自分の顔に自信がないから)
というウワサもあるけれども、たぶんそうでは
なさそう、

(勉強に忙しくて異性など気にかからない)
という勤勉家が多いようですね。

次に、項目の四番目ですが、個人的交際が
男子(特に三年生)に、圧倒的に多いよう
です。三年生の男子のみなさん、あなたがたは
なぜ、個人的な交際が好きなのでしょう?
エッ、ナニナニ、イヤァ、アラアラ、
まあまあ、これは、あまり追求しないこと
にしましょう。ところで、一年生の男子にも少
しいたようですよ(ちよっとオマセですネ)
これを、インタビューの結果からみてみま
すと、個人的な交際 については、
「あまりよくない」「いやだなあ」「まだ早
いよ」というような反応が、かえってきまし
た。ほかに「その人の考えによる」という、

スッパル考えの人いました。

また、グループ交際 のほうは、「明
くてよい」「中学生らしくてよい」という答
えに対して、「やったことはあるが、あまり
よいものではない」という、体験者からの、
貴重な意見もありました。なぜよくなかつた
のでしょうか? 筆者もわかりません。

さて、項目の五番目、あなたの理想の人
は? この質問に対しての答えは、非常にた
くさんありましたが、紙面の関係で、ほんの
一部しか載せられませんでした。

男子に最も多かったのは やさしい人
女子に最も多かったのは スポーツマン
そのあとについて、 明朗な人 というのが
男女共に多かったようです。

あなたはこれらの中にあてはまる性格をも
っていますか? 五稜の男子は、そして五稜
の女子は、これらのタイプの人を望んでいま
すよ。

今までは夢であった人気者になることが、
このアンケートを読むことによって、五稜中
の人気者になれるかもしれませんよ。ただし
いろいろな注文を全部とり入れなければなり
ません。そうすると、やっぱり、人気者、は
夢かな……。(何力変ダナァ——)

理想ばかり続きますが、理想の男女

交際 についてはどうでしょうか。アンケ
ートには、男子が「中学生らしいもの」「誰に
でも堂々といえるような」「のびのびしてい
る」というようなものがでてきました。女子
では「清潔な感じのもの」「ごく自然な
交際」などがありました。それから、中には

「柔道一直線の直也とミキッペ」のような
交際」というのもありました。筆者も、あ
んな男女の仲っていいなァと思います。皆さん
の中にもあの番組を見ていて、うらやましく
なってテレビをこわしてしまつた人もいた?
なんてウワサを耳にしました??

この五稜中の中にも、あの二人のような交
際をしている人がいるかもしれませんね。
その人達は、まわりの人に殺されないよう
にしないで……。まわりの人は、興奮してい
るので何をするかわかりませんからね、気を
つけて……。

今までアンケートの結果にインタビューの
結果を折り込み、具体的に考えてきました
が、いかがでしたか? これをもとにして
より好まれる人間になつてください。

※アンケート、インタビューによる御協
力ありがとうございました※

中学生とは

「中学生とは？」なんて、みなさんは考えたことがありますか。私達は、中学生である以上ぜひとも考えなければならぬ問題です。しかし

いままでにどれだけ人が、この問題を考ええてきたでしょう。又現在、どれだけの人が考えているでしょう。なんとなく漠然とした問題だけに、軽視しがちです。そこで今回、インタビューやアンケートを通して、ごく一部ではありますが、中学生というものについて考えてみました。

中学生時代をせい
いっばい過ごして
いく中学生

「中学生理想像………」
いろいろなことができてきましたね。
清潔・明るい・すなお・まじめ……

みなさんはこれを見てどう思ったでしょう。

大部分の人が、「むずかしい」「不可能」と思ったのではないのでしょうか。でも、できないと始めからきめつけてしまい、中学生としての自分を見つけようとしないうまま、三年間を終えてしまう。わびしい三年間だとは思いませんか。こうならないために、私達の若いエネルギーを「むずかしいこと」「不可能なこと」にぶつけ、実現させていく必要があるのではないでしょうか。

努力の結果、たとえ実現されなくとも、その努力によって得たものは大きいと思います。一にも二にも努力をそして、一日でも早く理想に近づこう。

良い点をとって両
親に見せる時
○自分の思い通りに
事が運んだ時
○お金をもらった時
○きれいな先生が欠
席した時
○寝ている時
○勉強を終えた時
○クラブをやっている時
○ふとんの中にいる時

これを調べてみて気づいたことをあげてみると、まずテストや友達と関連して、喜びを語っている人が多かったということです。つまり、中学生の喜びというものは、学校生活の中からみ出されるということになるでしょう。学校生活の変化が、直接私達の喜びしみにつながるのです。

○正直ですなおな中
学生
○清潔で明るい中
学生

○喜びを感じる時
○学校で友達とおし
やべりしている時
○数学のテストで良
い点をとった時

○成績が上がった時
○お金をもらった時
○テストの事

○ある程度きまりを
守り、何事も自信
をもって行動する
中学生
○ふざける時はふざ
け、まじめにやる
時はじめにやる
そんな中学生

○2喜びを感じる時
○好きな人と話して
○ひとつのことを成
しとげた時

○成績が上がった時
○お金をもらった時
○テストの事

○根じょうがあり、
皆から好かれる中
学生
○あまり勉強にとら
われない中学生
○規則正しい中学生
○まじめで思いやり
のある中学生

○3今話題になっている事
○家庭科の実習の事
○深夜放送のばか話
し(まじめな話し
もするよ)

○成績が上がった時
○お金をもらった時
○テストの事

○三島由起夫の割復

○テストの事

○テストの事

事件

○深夜放送

○男女交際

これらを参考にして考えると、話題には一定時期にいつもあげられるもの、たとえば高校受験のようなものと、マスコミの影響で常に変化しているものがあります。

私達は、話題をもつことによって友、そして父母と語り、考え、そこで何かを得る。話題をもつことには、こんなよきがあるのです。

ですから私達は、話題を聞きながすだけでなく、語り合い、そして考える、それが必要ではないでしょうか。

4 悩み

○進学

○勉強

○友達が少ない事

○高校受験

○片思い

○日本国について

悩み多き年頃………

それが、中学生時代ですね。

おとなとことものとの間だけに、身心ともに不安定な時期なのです。そして、行動面においても、「なんでも、かんでもやってみよう」「そんな夢をいだいている年頃なんです」

しかし、あまりにも現実と夢とがちがいます。そのため、自分自身というものを見失うこともしばしばあります。そんな時私達は悩み、苦

しみ、そして解決しようとする。それが、中学生いや私達なのです。悩みにつぶされかかってでもそれに負けず、解決の方向にただ一直線そうなりたいものですね。

5 連想する事

○まじめで勉強ばか ○15歳

り

○おとなとこともの ○男女交際

中間

○中体連

○学制服・勉強

○義務教育

○高校入試

○明るい

○じゅくしきれない

リンゴ

「中学生とは」と言われて連想するもの、いろいろありますね……。

それは、皆それぞれ考え方が違うように、連想するものも違ってくるからでしょう。

私達は、それから友達の中学生に対する考え方というものが知り、もっと理解しあうべきではないでしょうか。



職員室コーナー

朝

三々五々集まってくる先生方

きょう一日のプランを考えながら

何となくあわただしく活気にみちている

八時三十分打ち合わせ

一日の学校の動きが話し合われ

それぞれの教室に散って行く

昼 生徒の出入りが激しい

さまざまな問題をいただいている

生徒の顔・顔・顔

夕

掃除当番も終わった

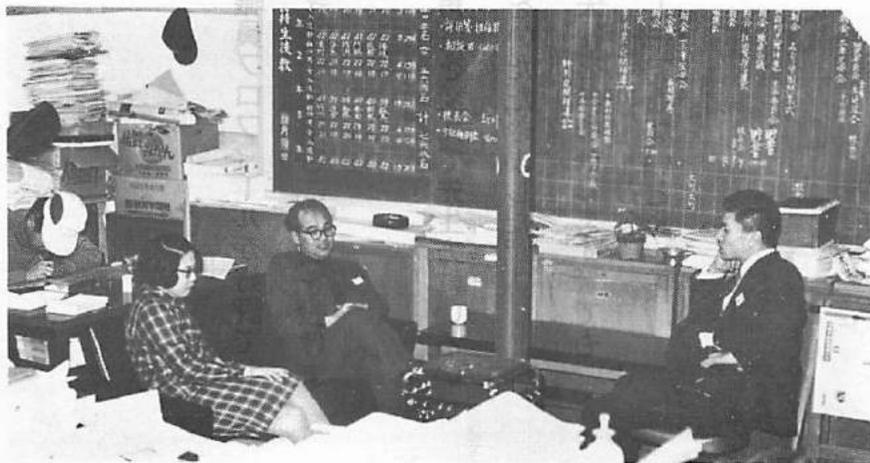
クラブ活動も終わった

校舎は早朝の静けさにもどる

夕やみが迫る

職員室から一つ二つと

電燈が消されていった



先生！ナイショでね！

へんな質問ゆるして

でも……

昨年の職員プロフィールが好評でしたので引き続き今年もこの欄を設けました。

質問の角度を変えて先生方にいろいろお答えをいただきました。

数々の失礼をおわびします。でも、人生にユーモアもないとね……。

一年団の先生へ

- ①文化祭の若者の部屋への感想をお聞かせください。
- ②教師になられた動機は？
- ③恋愛結婚でしょうか。見合い結婚でしょうか。独身の方は理想を。
- ④好きなテレビ番組は？

◎一年団

主藤先生

- 1、中学生らしい若さがありました。学級フロファイルは楽しかったですね
 - 2、成長めざましい若者と生活することは楽しいことだから。
 - 3、精神的に豊かになるような結婚がいいですね
 - 4、映画が好きなのでテレビ名画劇場を時々見ます
- 本堂先生
- 1、全員が参加できるようにくふうするとよい。
 - 2、恩師の影響です。

3、どちらでもない。

4、ミステリーゾーン（今はない）おもしろいから。

小西先生

1、ただ楽器をもっただけで「カッコイイ」という世の中であるが、中学生として又学校の文化祭ということで、もっと考えてみる必要があると思う。みんなで歌う、さわぐ、遊ぶということには先生も大賛成。来年に期待する。

2、単純な動機であるが、子どもが好きだったから、（しかし本音を吐けば手に技術もなく）

3、どちらか判断がつかない結婚。次は是非見合い結婚をしたいものだと思う。

4、特になし。

三十刈先生

1、騒音に触まれた亡者其の最後の饗宴の部屋。

2、既成概念を破った教師らしからぬ教師に。

3、もちろん……です。みなさんどうみえますか。

4、特になし。

永谷先生

1、活発でよろしい、節度ある会を。

2、I like children very much.

3、昔のことは忘れた、幸にするように、いつている。

4、(1)ドリフターズ、8時だよ全員集合。

(2) Kaoru Kanetaka in hopping around the world.

川原先生

1、ねがいがみんなにわかってもらえましたか。

2、勉強したかったから。

3、もちろん「……」ですよ。言うことなし。

4、NHKシンフォニーホール。いい気分ですよ。

笠島先生

1、残念ノ食堂がいそがしく見れませんでした。

2、いつも若くありたい、又、自分の力をた

めしたい。

3、見合った後、恋愛、普通でしようね。

4、スポーツ番組。頭を休めるため。

成田先生

1、みんなで歌いそして語り合う……。そんな若者の部屋に発展させてください。

2、試験、試験の明け暮れで埋没した青春をとり戻すべく……意味わかる？

- 3、冷静に観察すること11年、おかげさまで幸せらしいです。
- 4、ニユース、ノンフィクション、ドキュメントもの……(創られたものよりも真実を) 歌謡番組……(見ながらじゃなく聞きながら仕事できるから)

山田先生

- 1、年代の相違を感じました。
- 2、子供が好きだから。
- 3、ご想像にまかせます。とても幸せです。
- 4、もみの木は残った。細うで繁昌記。

田島先生

- 1、よい企画だったと思ってます。
- 2、私をとりまく全ての条件が。
- 3、勿論恋愛結婚です。幸せで一ぱいです。
- 4、スポーツ放送です。全能力を発揮するすばらしさとウソがないからです。

二年団の先生へ

- ①教師という職業をどう思いますか？
- ②今年度の運動クラブは例年に比べて弱くなったのでは……。
- ③初恋はいつごろでしたか？
- ④自分のからだが一番好きな所は？

◎二年団

佐々木先生

- 1、素晴らしい、人生そのものですわー。
- 2、文化クラブが次第に活発になってくるでしょう。
- 3、忘れる年になってしまいました。
- 4、身体の上すべて、アダナをみればわかるでしょう。

桑川先生

- 1、生徒の反応によって感じが変わる。
 - 2、科学的自主トレーニングの不足。
 - 3、恋の暇なし。
 - 4、ヘソ(親と子のパイプ)
- 萩原先生
- 1、民族の将来に影響する大切な職業だと思ふ。
 - 2、一概にそうは思いません。
 - 3、ママのお腹にいるときでした。
 - 4、血管 太いから……。

館洞先生

- 1、意義のある職業である。
- 2、特に弱くなったと思わないが、練習量の制約は強くなったと思う。

- 3、忘却とは忘れることなり。
- 4、耳(俗にいう福耳……金がたまるそうだとホントカネ)

滝村先生

- 1、楽じゃないね。いろんな生徒がいるから。
- 2、その通りだがこれが五稜の実力ではないかな。
- 3、はっきり記憶にないが小五の時かな。
- 4、特になしといえバウソになるね。

保坂先生

- 1、宇宙のようなもの。
- 2、そう思うかい。言わせておけ。
- 3、高二の時。美しく、甘く、ほろ苦かった。
- 4、手首。よくスナップがきくから？

門脇先生

- 1、感情の起伏に常におどろかされるもの。
- 2、体力づくりの計画性の不足によるもの。
- 3、多忙なため時期喪失誠に遺憾。
- 4、全部好き。これすべて父母に継ぐ。

金崎先生

- 1、男子一生の職に値す。
- 2、練習不足と時間不足と体力不足。
- 3、目下、現在進行中(?)
- 4、頭、キマッテンナ、良イカラサ!!

三年団の先生へ

①教師という職業に生きがいを感じますか？

②中学校時代の思い出は？

③ミニスカートから感じることは？

④中学生の男女交際に思うことは？

◎三年団

米田先生

1、反省をもとに生きがいを感じるように努力しています。

2、自由と実現の可能性を大いに持っていた時代。

3、時と場所を心得て、オシャレをするのもよいでしょう。

4、ほどほどにするべきでしょう。

蘇馬先生

1、挫折感を感じます。(生きがいを感じるからかも?)

2、上から抑えられて物言えぬ時代(心の中で反発)

3、短い程よい。にあうともっとよい。

4、堂々と胸をはって、おおっぴらに願いたい。

金田先生

1、苦あれば楽あり——強く感じます。

2、空襲——国破れて……食糧難の時代。絵画への熱中。

3、過ぎたりは何とやら——センスの問題です。

4、男女七歳にして……うらやましいね。あくまでもオープンに。

竹内先生

1、生きがいは別の所に求めているが、職業としては案外一生懸命やっている方ではないかと思っっています。

2、良い友人が得られれば腹はへっても心は案外豊かな日々が続いていたのではないかと思ひ出されます。

3、流行ということはこの場合賛成いたしたくありません。(ミニは楽しい)スカートが長くなると不景気の前ぶれだということです。

4、程度によります。暴走しなければ結構じゃないんですか。

斉藤先生

1、生徒と一緒に何かをしている時に感じます。

す。

2、裏の畑で大根ぬきをし、まに合う位勉強した。

3、イイネエ、でも自分の姿を考えてみないとネ。

4、異性を気にする人は肝心の事がぬけてるネ。

岡本先生

1、答えにくいですが、感じると答えておきます。

2、思い出それはよく学ばずよく遊んだこと。

3、経済的で大変よいでしょうね。

4、健康的な交際なら大いに賛成。

桜井先生

1、?

2、修学旅行(男生徒がとてもやさしかった)

3、経済的で、とてもはきよい(但し大根足が気になる)

4、健全な交際であれば大いに結構。
進士先生

1、君達や青年と語りあっているときに。

2、試験で友人との連帯意識を深めたこと。

3、軽快で健康的である。プロポーションに注意。

4、結構ですね!!、だっど!!、がありますよ。

学年に属して

いない先生へ

- ①担任を持たなくて淋しくありませんか？
- ②教育とは何でしょう？
- ③街で若い女性と出合ったときどこを一番先に見ますか？
- ④もう一度生まれ変わって来れるとしたら男性にしますか、女性にしますか？

◎学年に属して

いない先生

校長先生

- 1、さみしいこともあるが学担の先生に同情すること度々。
- 2、自信過剰をこわしてやること。
- 3、"目"目だけは化けられないから。
- 4、死んでから考えよう。でも新しい経験も楽しいだろうな。

教頭先生

- 1、淋しいですね。生徒と共にあることが教師の生き甲斐です。
 - 2、ひとりずつの将来を生かすため教えること。
 - 3、目、目は心の窓。
 - 4、男、不満足部。
- 永井先生
- 1、さびしいときもあります。
 - 2、辞典には教える育てるとありますが、さて？
 - 3、視線はきめてない。総体的なものだから。
 - 4、それぞれ特徴あるがさて？

藤原先生

- 1、特に感じない、君らと接触する場は多くある。
- 2、一言でなかなか言えないよ。
- 3、何を期待しているの？目かな、ひまな目よ。
- 4、愚問だよ。人間精一杯……らしく生きることです。





アメリカ見聞記

田島先生

生徒会から十二月十日という期限つきで、アメリカ視察の原稿を依頼されましたが、いろいろいそがしい毎日が続いていますので、整理されないうままかきながらになることをお許しください。

① 合衆国なのだ

学生時代から、地図のうえで日本とアメリカを比較し、アメリカ合衆国の大きなことは、知識とし



モース・ハイスクールの女学生と

て感じてはいましたが、実際に行ってみて、ただ地域が広いというだけでなく、気候、風土、人種、慣習等、あらゆる面で、いわゆる合衆国なのだなと感じてきました。

アメリカ合衆国には、世界の全ての民族がいるといえるほど、数多くの人種があります。今でも、世界のいたるところから、アメリカ合衆国に住みつこうと、数多くの人たちが集ってきているのだそうです。

このような実情と、アメリカ合衆国ができあがった歴史的背景から、極めて顕著な地方分権の政治形態がとられています。ですから、私たち日本人の考えている国家という概念とは、よほどかけはなれた国情であることを知らねばなりません。交通法規なども、州がちがえばずいぶんかわっているそうです。

国の実情もそうですが、アメリカ人の気質も、自由そのものだといえます。服そうなども、自分の好みにあつたものを着るのがあたりまえで、よほどのことがないかぎり制服をきめるなどということはありません。ですから、中学生の服装も赤もあれば黄もいるというありさまで、色彩はきわめてはでなものです。なんでも統一しなければ気のすまない、日本人の大人の感覚からすればカーデガンをはしよったり、ノースリーブの服装をしている中学生や高校生は、とうてい許しがたいと考えるでしょうね。

しかし、よくいわれていることですが、自分が自由を欲すると同じレベルで、相手の自由も認めねばなりませんから、そこには、最低必要なまきは存在するわけで、これは実によく守ります。

日本の道徳は他律の道徳といわれ、人がみていなければ、そしてはじをかかなければ、なにをやってもよいと考えて行動しますが、

彼らの道徳は自律の道徳です。例えば、交通道徳ですが、警察がいるいなかかわらず、信号は実によく守ります。

小学校、中学校の登下校の時刻には、校門の近くの道路に、小学生、中学生の交通指導員が、交通指導員のユニホームを着、赤い旗をもって立っています。この小さな交通指導員の指示を、大人がちやんと守って、ゴー、ストップしています。警察がいなければ殆んど守られない日本とは、そうとうおもむきがかわっています。

② ワシントンでの日曜日朝

ちょっとむずかしい話をしたようですので、こんどはちょっとかわった体験談をお話ししましょう。

世界の誰れもが知っていることですが、アメリカ合衆国には、人種差別の問題が、いまだに存在しています。大別しますと、太平洋側の各州は、割におおらかに各人種がトラブルをおこすこともなく生活していますが、大西洋側、つまり東部では、へんなエリート意識をもった白人が勢力をもっていて、黒人をかけて圧迫しているのだそうです。

元来、アメリカ合衆国は、ご承知の通り、徹底的に利潤を追求する高度に発達した資本主義の国ですから、あらゆる企業に機械が導入され、単純労働者はほんの少ししか必要としないわけです。そのほんの少ししかないわりに、白人、黒人の単純労働者が殺到するわけですから、失業者の数は大きいものになります。しかも悪いことに、黒人は高等教育を受けにくい環境におかれていますから、黒人の失業者が圧倒的に多くなります。くいつめた黒人の家族は、大都市にいけばなにかおちこぼれにありつけるだろ

うと、ワシントン、ニューヨークに集まってきました。

ところで、私は十月三十一日（土曜日）の夜にワシントンにつきました。引率者の小島さんから、「くいつめた黒人がうろうろしているの、夜はホテルからでないように」と、厳重に注意されましたから、その日はやくやすみました。

翌朝、はやく目をさましたのですが朝食をとりたくても、日曜日ですから、ホテルの食堂は午後一時からです。やむをえませんでしたので同室の藤本さんと外食するために、ホテルの玄関をでました。九時頃だというのに大通りに人がけまったくありません。自動車も走る姿もありませんしあたかも死んだ街のようです。「アメリカ人は日曜日には昼までねているのかな、まあこのかどを曲ってみよう」と街かどをまがりました。まがった大通りも人がげはおろか、車一つ通っていないのです。「このふんどと、たべるところはないかもしれないね」と話しあいながら、もう一つの街かどをまがりました。いたいた黒人が五〇メートルぐらいはなれたところに三人いるなあとと思った瞬間、小路から、背の高い、よれよれの作業服をきた黒人が突然あらわれました。

「○○○○○○○○……」なにか叫んでいます。その黒人の目は赤く充血し、しかも、焦点が定まらないよどんな目をしていました。「○○○○○○○○カモン、アタツク……」これだけわかりました。その姿勢は、まさに私たちにおそいかかろうとしているのです。私はとっさに「ゆすられるな、このカメラは五万円で、いや、もっとするか、この腕時計一万円ぐらいかな、さいふに百ドル入っていたな、そうだ全部やろう体が大切だな」わずか一秒ぐらいの間にこれだけ考えました。

勉強になりました。

③ ハルトーマン一家のバースデー

私は、アメリカの家庭に民宿する時の条件として、私と同じぐらいの年令で、サラリーマンで、私と同じような子どもものいる家庭にとまりたい、と希望をだしていました。その念願がかなってサンデーゴース市郊外の中学校の技術科の先生の家にとまることになりました。奥さんと、子ども四人の計六人の家庭です。

十一月十七日は、一番としたの小学校一年生のクック君の誕生日です。私はその日のくるのを強い関心をもってまっています。なぜなら、もともと誕生日を祝う習慣は欧米のものですし、私と同じレベルのアメリカ人ですから、わが家で行なう誕生日のお祝いと、本場のそれと比較できるからです。

その日の夕方、私は四ドルちよっとの大きなデコレーションケーキの包をもってかえりました。奥さんは非常に喜んで、大きなジュエスチャーで、「オー、サンキユー、サンキユー」と、キューのところにはアクセントをつけて、にこにこ私を迎えてくれました。私の心の中では、今日のごちそうはきつと衰勢だらうな、と期待と興味をうずまいています。

食事だという知らせをうけましたから、おもむろに食卓にむかいました。ところが、意外なことに、誰れもお客さんがいないばかりか、食事は普段と少しもかわらない内容のものでした。なまのニンジンとセロリがたて切りになったものに、かくハム、それにコーヒーとパンだけです。私は、バースデーのお祝いをしない家庭なのかなーと思いつつながら、それらをたべた後「グッド、サンキユー」とお礼をのべて食卓をはなれました。

七時半かっちりに、玄関のベルがなりました。子どもたちはいっせいに玄関にむかいドアをひらきました。大げさに挨拶しおわった後、早速、私をひき合せ、紹介してくれました。お父さんの方のおじいちゃんとおばあちゃん、それに、お父さんの妹さんの三人です。続いてまた玄関のベルがなりました。今度は奥さんの方のおじいちゃんとおばあちゃんの二人でした。隣の子ども二人もきました。お互いに挨拶しあうゼスチャーがものすごく大きくて、いやはや、にぎやかなのです。

時をみはからって、奥さんが、「ハッピーバースデー、クック」と叫ぶと、集った一同でいっせいに「ハッピーバースデー、クック」と声を合せました。クック君はてれくさそうに笑いながら、「サンキユー」と答えました。その後、クック君にプレゼントが各人から渡されました。衰勢をおくりものを予想していた私は、またまた期待をうらぎられました。どれもみな二ドルぐらいでかえる簡単なおもちゃです。隣りの子どものおくりものは、小さな本でした。両方のおばあちゃんたちは、一ドル紙幣を二枚ずつクック君にわたしました。クック君の喜びようは絶頂にたっています。二ドルといえば、日本円に換算すると七百二十拾円ですが、貨幣価値は日本の三百円ぐらいしかなのです。日本の私の家で、私の娘たちが交換するおくりものの方が、はるかに高価なものです。

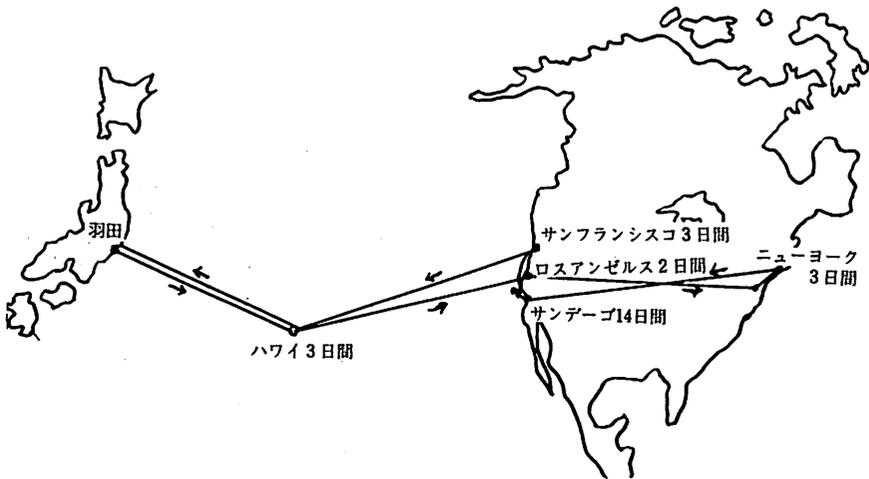
ご主人のハルトーマンが、「バースデーレストランにいくからこないか」というので、車に乗ってレストランにむかいました。そのレストランは、もつばら、バースデーを祝う人達のためのレストランのようで、つぎつぎあちこちのテーブルで「ハッピーバースデーチュー………」の歌が合唱されています。ちよつと聞

があつて、はつとすると、ジャン、ジャン、ジャンと鐘をならし二人のボーイさんがかたにかついで、こおどりしながらにかをはこんできました。それは、直径十五センチほどのアイスクリームケーキと、それに私の買った、デコレーションケーキだけでした。クック君だけには、クリームソーダーがあたえられました。

「このケーキは、ミスター、タジマのプレゼントです」と奥さんがみんなに紹介した後、ご主人がケーキの上に六本ならんだロースクに火をつけました。「ハッピーバースデーチュー、ハッピーバースデーチュー……」みんなの合唱がはじまり、クック君はてれくさそうにニコニコしています。合唱がおわつた後、クック君は一息でロースクの火を消しました。みんなクック君のその行動をほめそやしました。その後、ご主人がケーキとアイスクリームを切つて、みんなにくぼりそれをたべはじめました。アイスクリームケーキの一ぺんと、デコレーションケーキの一ぺんをたべただけで、そのレストランをあとにしたのです。

私の家の子どもの誕生日の食卓と比較すると、まったくじみなものです。じみではあるけれども、クック君の誕生日を心から祝っているのだという、ふんいきが十分にかもしだされています。今の日本の子どもは、ぜいたくにならされていることをあらためて認識したわけです。このはなしをきいて、あなたがたはどう思いますか。だれかに感想をきいてみたいですねー。

この度田島先生が全国教育長会並びに国際教育会の共催により渡米しました。貴重な体験報告と共にここに主なコースを紹介しておきます。



四十五年度学校日誌から

昭和四十五年度学校誌から

四・四	始業式(普通学校一八 ひとり学園三学級)	八・二九	放送陸上(一〇〇米、全国一位、山本君)
四・七	新任式(村上、大福、川原、館洞、遠藤、佐々木先生)	八・二一	第二期始業式
四・二七	入学式・PTA入会式	八・二四	校内水泳大会
四・二七	対面式・形態測定	八・二六	中対連水泳大会(女子優勝・男子二位)
四・二七	クラブ希望調査、内科、耳鼻科、歯科検診	九・一九	秋季遠足一・二年(仁山)三年(駒ヶ岳登山)
四・二七	身分証明書写真撮影	九・二五	三年学級対抗試合(バレ)
四・二七	家庭訪問週間、阿部先生退任式	一〇・三	映画教室「ママいつまでも生きてね」
四・二七	PTA総会	一〇・三	道南中学校体操選手権大会
四・二八	三年修学旅行父母会	一〇・四	(女子優勝 四連勝)
五・四	前期生徒会委員任命式	一〇・一六	第十回文化祭(一七まで)
五・六	小西先生新任式	一〇・三二	中学校英語祭
五・二二	三年知能テスト	一一・二六	生徒総会
五・二八	修学旅行出発(五・二二帰函)	一一・三〇	生徒会新役員得補立会演説会
五・二九	一年知能テスト	一一・七	新生徒会役員任命式
五・二〇	一・二年赤川遠足	一二・一一	三年父母会、相談週間
六・二二	第十回大運動会	一二・	ひとり学園終業式
六・二二	中学校合同音楽祭	一二・二一	一・二年父母会
六・二五	中対連陸上大会壮行式	一二・二四	第三期終業式
六・一七	開校記念日	昭和四十六年	
六・一八	中対連陸上競技大会(男子優勝・総合二位)	一・一九	第三学期始業式
七・一七	父母会	一・二一	一・二年冬季遠足
七・一八	中対連八種競技大会壮行式	二・一五	中対連スキー大会 三位個人小倉一位
七・二〇	一位 卓球女子	三・一五	第八回卒業式
		三・一九	学年末父母会
		三・二四	終業式

職員住所録

氏名	職名	担当教科	クラブ	住所
梶原 四郎	校長	英語		函館市五稜郭町
村上 健介	教頭	英語		〃 谷地頭
遠藤 一郎	教諭	みどり		〃 高盛町
岡本 守		保健	陸上	〃 宇賀浦町
荻原 ハル			体操	〃 柏木町
笠島 寿泰		技術	蹴球	〃 船見町
門脇 初代		英語	読書	〃 亀田町字富岡
金崎 絃一		数学	水泳	〃 函館市上野町
金田 豊秀		国語	読書	〃 田家町
川原 エイ子			書道	〃 弥生町
条川 俊郎		理科	理科	〃 日吉町
小西 孝男		保健	籠球	〃 五稜郭町
斉藤 正宏		数学	卓球	〃 千代台町
桜井 恭子		音楽	音楽	〃 千代台町
佐々木雄孝		社会	排球	〃 日吉町
進士 継昭		美術	美術	〃 杉並町
主藤 節子		数学	羽球	〃 杉並町
蘇馬 辰郎		英語	登山	〃 谷地頭町
滝村 浩平		技術	技術	〃 柳町

竹内 巖太郎	〃	社会	将棋	〃 亀田町字富岡
田島 鎭彦	〃	理科	理科	〃 字昭和
大福 栄一	〃	みどり		〃 函館市深堀町
館洞 光宏	〃	社会	野球	〃 本町
永井 太郎	〃	音楽	音楽	〃 松陰町
長尾 敬子	〃	みどり		〃 青柳町
永谷 嘉一	〃	英語	排球	〃 日吉町
成田 恭子	〃	家庭	家庭	〃 亀田町
藤原 孝一	〃	数学	柔道	〃 千代台町
保坂 武道	〃	国語	野球	〃 亀田町字昭和
本堂 潤悦	〃	社会	読書	〃 函館市住吉町
三十刈 智一	〃	社会	排球	〃 中島町
米田 忠夫	〃	理科	理科	〃 亀田町字富岡
山田 孝子	〃	養護		〃 函館市松陰町
武田 政雄	〃	事務		〃 柏木町
柳沢 美代	〃			〃 湯川町
和田 秀子	〃			〃 湯川町
大竹 義勝	〃	用務		〃 亀田町字本通り
熊倉 利典	〃			〃 字本町
木村 照江	〃			〃 字富岡

文 芸

人間としての深さはその人の思考力や判断力にあるといってもよい。書物を読み、感想を書き、創作してみることは、それだけその人の思考力や判断力を養うことになる。

〃 涙と共にパンを食べたもみぢなけ
水は人生の味は解らない。

——
——
——
——

俳句

三年

太陽に声はりあげし夏の海

秋は来ぬ友のたよりのなつかしく

ちらかしたパンくずへ雀一羽二羽

文化祭近し歌声流れる

ゆらぎつつ煙消えゆく秋の空

秋はゆく飛びかうかもめに落日に

夕ぐの冷れおぼえつつバスを待つ

寒き朝土の色さえ乾きけり

初雪の庭に残りし菊の花

教室のオーバー掛けにも冬来たる

昼休み雪のグランドへ飛び出しぬ

息白し夜空の星の輝ける

月の石見に行く午後の雪静か

雪空にアドバルン舞う師走かな

雪晴れや外の見えない窓ガラス

勉強終え食べるみかんの甘さかな

小川 しのぶ

大野 真寿美

関口 寿徳

鈴木 勝晴

加賀 佳子

黒川 真司

小林 正広

今 政樹

坂本 葉

斉藤 浩一郎

鹿内 優

外崎 誠治

森田 彰

林 藤男

石岡 彰

笠間 弘之

深夜なおストーブ燃えて勉強す

みかんむく敬子の顔に笑いあう

初雪につまびくギターの音色かな

木枯しにわびしくなりし家路かな

雪やみぬ雲の切れめに陽の光

外とうの上からとおす冬の風

雪どけに人の心もなごむかな

雪どけや白く濁れる空の色

新川を雪解け水の走りけり

春風やテニスのボールそらしたる

立春の鐘の音渡る雪の屋根

雪降りやこたつの上で指すもう

冬の川流れゆく雪陽に光る

ざくざくと雪をくだいて郵便屋
夕空にばんやりうかぶしゃぼん玉

名古屋 彰

渋川 利幸

久米田 稔

船水 巨

阿部 嘉和

本間 晴美

藤井 葉子

小島 樹彦

佐々木 謙次

石塚 弥寿

長沢 勝彦

袴田 真紀子

田中英行

板倉 栄

高橋 志津子



短歌

二年

目の前が水のしぶきで見えずとも最後のターンに力も込める

大滝 泉

野球部はただひたすらに練習し心はもはや札幌への道

上ノ山 雄平

長々と続く授業のせつなさよふいにひびくは天のたすけぞ

大須田 裕

練習のつらさに負けて涙ぐむコーチの顔は鬼のよう

小島 寿天

住みなれた土地を離れて函館に今でも思う別れのつらさ

千葉 裕子

生きること幸か不幸か人の世の冷たさ思ふとほほぬらす

岡田 司

体操の美しき演技見とればわれもやるぞと心もはずむ

日角 賢一

グラウンドで栄光めざしてはげみつつ五稜健児の意気高し

佐々木 孝子

友の愛別れのことば出なくとも心は通う冬の日の午後

中村 香

ぼんやりと教師 の話耳にうけ視線は外の百メートル走

木村 雅彦

浅橋で異国の人がほほえんだ船でる時に思わず手をふる

鶴川 快

わがクラブ部員足らずとなげきつつ伝統死守とかけ声ひびく

原田 康久

荒れくるう真冬のふぶきわが胸の友との不和に冷たくしみる

三本 恵里子

夕空にかすかに光る星ひとつ明日への望みわが胸にわく

井端 祐子

スズランの心も知らず歌うわれりしくも見ゆ愛らしき花

石井 辰男

クラブ終え汗の臭いと空腹をかかえてまようわが家と店を

青木 美智子

朝モヤの香り高きはまなすは色あざやかに咲かんとすなり

加藤 道子

事故兒みて涙といかりがこみあげて悲しき世相に心も重し

新谷 隆俊

短歌 三年

ふと見つけし滝つぼ近く走りゆき冷たき水を手にすくいたり

青木伸一

夕ぐれの空をあるけば天頂に一番星がつめたく光る

向井俊彦

久しぶりに十勝のたよりとどきたる兄の手紙にみんな集まる

笹島信平

静かなる午後を重たき目をこすりテスト近しと黒板に向かう

井元光一

新しき蛍光灯のまぶしさに知らずわが手もスイッチにふれ

花田史郎

学校の帰りに友へ電話する心はずみぬ受話器持ちつつ

坂本 菜

手にとりてボールの汚れながめつつ思い出しおり帰らぬあの日

山中早苗

窓により見わたすグラウンドひっそりと人影もなく雪降っている

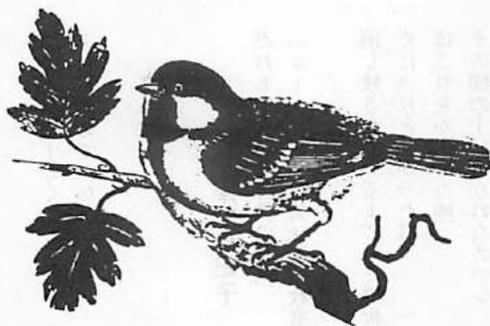
堀江めぐみ

ちらちらと雪降う空をあおぎつつふと思いたり卒業の日を

野崎恵子

カーテンを開けて見上げし雪空にとほしき朝の光一すじ

山崎興子



詩 一年

あす

— B 若松 朋子

わたしたちには

「あすがある」

夢と希望のかけはし

「あすがある」

喜びをもてるものには、すべて

「あす」がある

昔の幻を追い

そのまま満足しているもの

それらには

「きのう」しかない

「あす」なんときれいなことばだろう。

まるで

光の中の虹のよう

このことばを伝えよう、子孫に

「きのう」なんかけっして求めないように

デパートの前で

— C 馬場亜紀子

「東バキスタンに愛の手を

おねがいします！ おねがいします！」

街を歩いていると

さかんに声がする

デパートの前で

募金箱を首にさげた少年たちが

道行く人々に

何度もおじぎしていた

けれど、だれも

募金箱にお金を入れる人はいない

少年たちの声は

いつまでも ひびいていた

強い母

— E 長倉 浩子

家はますます

両親はたびたびけんかをし

小さい母は妹のおもりをしている毎日だっ

た

でも

でも母は強く生きてきた

私に 近頃それが解った

どんなにまですくても

それに耐えてきた

教室

— F 岸川真紀子

だれもない放課後の教室

「シーン」として気味悪い教室

消し残されているよごれた黒板

ぐにやりと曲がった机

ほこりをかぶった棚

その棚の上に置かれたカバン

「昨日のそうじはだれなの」

明日もまた先生はおこるだろう

公害

— E 小田 誠二

日本には欠けている

青い空が

澄んだ海が
きれいな川が

人間の敵 工場

金さえもうかれば

あとはかまわない

人々はどうなつてもいい

そういう考え

かつてだ 無責任だ

どろどろの排水を出す工場

もくもくとばい煙を出す工場

息のつまりそうな悪臭を出す工場



コート

二D 影井ひろみ

水曜日の二時間目

教室から外を見る

雪降らないかなあ

雪が降るのがまちどおしい

どうしてかな？

雪だるまをつくりたいから？

いいえ

この前買った

濃紺の

ミニーの

コートが着たいから

父さん

二D 犬井 幹雄

休日

小屋を見ると

電気カンナの音が

ガガーバリバリノとする

とうさんが働いている

もくもくと

せんばんのハンドルを手に

汗を流し

顔を真っかにし

目を細め

顔をしかめて

がんばっている

とうさんが働いている

もくもくと

冬將軍

二D 大滝 泉

木枯が

わたしのほほをかすっていきます

オレンジ色の夕焼けが

わたしのひとみをかすめます

驚きました

もう冬將軍がやってくる季節なんです

どうなってるんです

わたしの毎日は

いったいどうなってるんです

わたしの心は

はやいんです

時のたつのが

できないんです

自分を見つめることが

つめたい北風が

寒い冬を運んできます

オレンジ色の夕焼けが

雪を運んできます

でも

わたしの心は

いったい何を運んできたのでしょうか

きらわれ者

一E 金森喜久子

なまいきな彼女

みんなからきらわれている

自分は知らない

自分はそれでいいと思っている

先生からはひいきされ

発言も 人一倍多い

それなのに

何のテストも私よりも悪い

人のやることにいちいち文句をつけ

いつもすまして

歩き方も

走り方もきどっている

なまいきな彼女

みんなからいやがられている

自分は気づかない

自分は何にも知らない

買物

一E 原 弘子

母と買物に行く

母は買物が長い

母はただみているだけ

「私がかれほしい」

「これも」というと

「今度きたらね」

「そのうちにね」

と母はいつも逃げる

足が棒になりそう

まるで親分と子分みたい

きらいな人

一E 高村 一枝

どうしても好きになれない人

その目がいやだ

その口がいやだ

「高村さん 私のノート知らない」

頭はかっか

心はにえくりかえるようだ

へんにすましている

どうしても好きになれない人

おれの朝

二F 滝下 栄治

「おはようございます」

「ごくろうさん」

というこれが おれの朝の始まりだ

水たまりはこおりつき

悲しくもないのに涙が出る

五・十と配って行くうち 人の数もますます

ひとあせかくころは

もう六時半

教会のかねがなる

さあ もうひと息

自転車をごぐ足に 力がこもる

* *

小さな妹

二F 伊藤比呂美

今日もまた妹を保育所へむかえに行く
父がたおれたあの日から
その日から風も冷たく雨降りだ

私は妹にかさをかぶせ

自分はぬれたいた

小さな妹はいった

「オンネ雨ニヌレルヨ早くカサニ

入りナサイ」

雨が降っている夕ぐれを

雨が降っている夕ぐれを

二人で歌をうたって帰っていった

私の心

二F 今野 郁子

がけのようにくずれていく私の心

たかが一回ぐらいの失敗が…

でも私の心は

あせりと不安でまっ暗なの

私の心は

絶望のどん底におちいってしまったの

みんなが輝いてみえます
みんなが消く澄んでいます

もう自分を見失ってしまいそう

これが自滅する寸前の私の姿なの？

もっと心の広い豊かな人間になりたい

たかが一回ぐらいの失敗で…

太陽はあの輝ける光を、

私にだけあててはくれないみたい

月はあの美しい姿を

私にだけ見せてはくれないみたい

みんなが幸せそう

みんなが楽しそう

秋

二B 目黒ひとみ

わたしはその時

ゆっくりと湖畔を歩いていました

冷たくすきとおった水が

岩を 白砂を 静かにぬらす

その底はまるで落葉の墓場です

くすんだ赤と黄の静かなコーラス…

美しいと呼ぶには ロマンス
あまりにわびしい抒情詩が
そこにありました

なぜか急にかなしくなつて

紅もあせかけたもみじの一葉を

そつと水に流しました

わたしはその時

島から島へとさまよっていました

ゆっくりと

橋をつたって

黄いろい落葉のじゅうたんをふみながら

そこでわたしがみつめたもの

それはちいさなどんぐりでした

わたしの心を ふと

幼い日へのがれがよぎりました

わたしはその時

はじめて

ほんとの秋に会えたように

おもえてなりませんでした…

雑草

二A 岡田 好美

春 雑草は歌う
 きれいな花たちといっしょに
 踏まれて もみくしゃになりながら
 夏 雑草は叫ぶ
 どす黒いどろといっしょに
 ギラつく太陽といっしょに
 秋 雑草は泣く
 きびしい風といっしょに
 さびしい枯れ葉といっしょに
 体を引き裂れ死にそうになって
 冬 雑草は生き続ける
 冷たくさびしく重い雪の中に
 ひとりでひとりぼっちで
 でも たくましく力強く しっかりと
 夢を持って希望をもって
 春に向って…
 人間もこのようにありたい
 ふまれても よごれても きづついても
 力強く生きる雑草のように

詩 三年

一日

三F 沢田 信之

今は冬 つめたい風がまどを打つ
 めくるこよみも数少なくて
 みかん一つが心のゆとりだ
 さす太陽も今は雲にかくれ
 青空も数少なくて
 ストープの炎が心を燃やす
 いすにすわりまた手を動かす
 すると
 どこからか美しいメロディーが心に響く
 手を休め目をとじる
 メロディーののって野原を走り廻る
 白い馬に乗り宙を飛び廻る
 なぜか
 小さなことに心を動かす
 今は冬
 つめたい風が道を行く人を打つ
 道を行く人も苦しい
 自分も苦しい冬の日

十五歳

三E 三井 雅子

十五歳

一生にたった一度しかない十五歳
 今私は歩いている
 それはつらく悲しい道だ

この若さで
 自分の将来が決まってしまうと
 十五歳にしては
 あまりにしても苛酷すぎるではないか
 でも
 つまづきながらも
 ころびながらも

この道を歩いていった先輩

これから歩こうとしている後輩
 その中で

今私はこのいばらの道を歩いている
 身をもって感じとった

私達十五歳の仲間がいる
 だれがわかるといふのだらう
 十五歳

それも青春の一部なのだらうか

すぎさった友情

三E 菊池 正巳

君は知っているか
 友の持つすばらしさを
 君は話したことがあるか

友と自分たちの将来を

君にはわかるか

あの美しい目にあふれる暖かき

君は笑ったことがあるか

友とゆくまで

君にないことがあるか

友となみだのかれるまで

君はなぐったことがあるか

友とたおれるまで

君にはいるか

こんな友が

僕にはいた

こんな友が

でもいつもいっしょに笑ったことはない

最後まで君は僕を知らなかった

君とは気持ちのつうじあえない

さびしく冷たい仲だった

だから今はもういない

どこか遠くめ消えて行ってしまった。

君にはいるか

こんな友が

君はほしくないか

こんな友が

僕はほしい

こんな友が

どんなに遠くはなれていても

心の通じあえる友が

いつまでも消えることのない

友がほしい

十一時十八分

三D 百足 礼子

私は本を読んでいた

雨と風 恐怖と緊張

私は本を読んでいた

花瓶と一枚の絵 美と静寂

私は本を読んでいた

ストーブとクッション 落ち着きと眠り

私は本を読んでいた

父と母の顔 愛情と反抗

私は本を読んでいた

暖い家庭 幸せ 安らぎ

私は本を読んでいた

春よ来ないで

三D 山中 早苗

秋が終わりました

こんなにも時には速く過ぎ去ってしまっ

ていいのでしょうか

冷たい雨が降りました

私の心はあせるばかりなのです

たった一つ残っていた花が散りました

私は何をしたというのでしょうか

この一年間に

北風が吹き出して

友だちが少しずつ後姿を見せはじめました

雪がぱらつきはじめて

友よ

あなたはそのまま去ってしまっていていいので

すか

冬になりました

私の心はこおってしまうのでしょうか

春がまちどおしいのです

みんなの心に花を咲かせる春が

けれど 春よ来ないで!

今の仲間と離れたくないから

大人になるのがこわいのです

だから
春よ来ないで!

デルタのあなたに

三A 葛西 千春

少女は水ヤシの皮を踏んで歩いた
うつろな午後の陽だまりには
子どもらが無心にタニシをいじりまわす
色づきはじめてた浮き根の稲は
あいも変わらず風にさわぐ
このどかな風物の中にも
青白い影が炎をゆらめいるのが
少女の目にはうすばんやりとうつろ
それは平和へのむなし願望と
すてばちになった心が
白い光線に耐えきれず酸化しているのだ

あなたたちの国じゃないわ!
あなたたちの国なもんですか!
このデルタの水は……
このデルタの土は……
あなたたちが犯す権利はない
あなたたちが荒す権利はない
あなたたちだけのものよ!

それなのに ほら!
遠雷のような魔の響きが
かすかに大気をふるわせる

水面にうつろいはじめてた暮色を
追いやるように
少女の悲しいため息も
かすかに大気をふるわせる
とろろいろを煮る
淡藤色の帯をゆらすように

ろうそくの炎

三F 黒川 真司

ろうそくの炎はさみしい
誰もいない暗い部屋で
親友と呼べる友のいない僕のように
ろうそくの炎は人生
短い命をじりじりと燃え続けるように
人もまた精いっぱい生きている

燃えるものがあればとどまることを知らない
ろうそくの炎は悪
しかし また
ろうそくの炎はあたたかい

僕らに明るい光と暖かさを覚えさせてくれる
でも 僕は何をしているのだろうか

ろうそくの炎はうらやましい
自分の行く道を知っているから
でも 僕はどうな道を行くだろうか
しかし やはり
ろうそくの炎は悲しい
自分の道が決められているから—
だって

僕の道は僕がつくって行くのだもの

秋

三D 藤森 之美

今にも落ちそうな空を見ながら
私はどこへ行くのだろうか
と思うことがある
ポツンポツンと窓ガラスについてしまった
雨の粒たち
それらを数えたら ながら
これはだれの涙なのだろう
と思うことがある

校舎のすみっこで

ひっそりと生きている緑

だれが君を追いやってしまったんだろう
と思うことがある

私に何かを告げようとしている風

うすぐらい世界

私はそこへ行くのだ

そう思うことがある

しかし

だれが私といっしょに

歩いてくれるだろう

私に何かを告げようとしている風

うすぐらい世界

私はそこへ行くのだ

そう思うことがある

何？

三A 山崎 典子

何でしょう

おしえて下さいー

目の前にたちはだかる暗い世界を見つめ
徐々に不安におびやかされてゆく

私とは

何でしょう

おしえて下さいー

恐ろしいほどに暗く

濃い灰色の霧につつまれ

無限の広がりをもっている

暗い世界とは

何でしょう

おしえて下さいー

一すじの光をもさえぎり

ただ沈黙を保って

知らないうちに近づいてくる

灰色の霧とは

何でしょう

おしえて下さい

何のざわめきもなく時の流れしか知らず

声は全てか 消されてしまう

沈黙とは

何でしょう

おしえて下さいー

さわることもできず 目にも見えず

とめるす心もない

時の流れとは

だれかがいつもこう答えます

「おまえはおまえ…」

「暗い世界は暗い世界…」

「灰色の霧は灰色の霧…」

「沈黙は沈黙…」

「時の流れは時の流れ…」

何度聞いても答は同じ

けれど 私は今日も聞くのです

新しい答えがかえってくるまで

私は何？

暗い世界とは何？

灰色の霧とは何？

沈黙とは…？

時の流れとは…？

だれかおしえて下さいー

雪

三C 鈴木久美子

部屋の中はボカボカ

ラジオから静かな音楽が流れています

一人の受験が

もうすぐクリスマスと来るのも忘れて

勉強に精出しています

消えている暇などありません

何も考えず ただそれだけを――

外には雪が降っています

あと数カ月しかないことを

雪は言っています

しんしんとつもる雪

受験生にあせりさえ覚えさせる

真夜中の

入試への不安さえ感じる

雪 雪です

自由

三E 下野 洋子

自由

自由ってなんだろう

自分の好きなことを

やりたいことをすること
だけど

私には自由が存在するだろうか

追ってくる高校受験

勉強

勉強

今の私にはそれしかない

去年の生徒も

きつと

私のもようだろう

それをのりこえ

みんな、成長していくのだろうか

自由

自由ってなんだろう

鐘の音

三E 吹 真澄

小さな心のひびきかねの音

落葉のまいちる秋の空

くるくるまわる葉が風にふかれて

だれかがひろってくれる

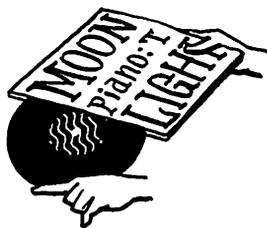
それととも カーン、カーンと

だれかによびかけている

小さな心のひびき

どこから流れてくる鐘の音

雨の日にもカーンカーンと
ひびいて流れてくる
この時海の地平のかなたに
いる島にも鐘の音が
きこえるだろうか
小さな心のひびき
雲にのって伝えて
おくれ



母の日入選作品

ありがとう

一・F 津田早苗

母の日に、送る私のプレゼントは、

「ありがとう」

リボンでかざることもできない。

きれいなはこにも入れることができない。

でも「ありがとう」と、いうことは、感謝の気持ちに、そっと包

まれている。

だれも開くことができない。

だれも見ることができない。

おかあさんだけが、味わえることはだ。

毎日、ごはんのしたくをし、

毎日、やまほどあるせんたくをする。

でも、いつもおかあさんの手は、

わらっている。

少し、ざらざらしているのに。

少し、かわがむけているのに。

いつも、おかあさんの手はわらっている。

泣きたくないのかな

おこりたくないのかな

もし、私の手だったら、

いつも、「ブンブン」おこっているだろう。

そして、もし私だったら、

とても、たえきれないだろう

こんなことを一人で考えろと

おかあさんの苦勞が、しみじみ、

わかってくるような気がする

おかあさんのありがたさが

手にとるように、わかってくるような気がする、する。

おかあさんありがとう

ほんとうに、ありがとう

ている。

若い母

一・E 岩橋英利子

私の母はよくお風呂で歌を唄う。

私のへやお風呂場の真上にあるので、日曜日の朝など下の方から

歌声が聞こえる。

母は少しうぬぼれる。

ヘアースタイルや、服のことでほめてやるとすぐその気になって喜

ぶ。

そして母はビールを少しでも飲むとよっぱらって大声で歌う。

そんな母をいつも父と二人で笑います。

鏡を見るたび、「ああ、しわが多くなって」とぼやく、もう母のひ

ざにすわれなくなりました。

前まで、足がいたい腰がいたいと言っていたけど今はもうよくなったのかしら……

おかあさんはもう孫のことを考えている

私の顔を見て

「大きくならなきゃいいのに」と言う。

赤ちゃんの時が一番かわいかったです。

母はすこし、しつげにかんしてはきびしい、口ごたえすると怒る。

でもこのごろはめったに怒らせない、あまり怒らせるようなことはしないし、これ以上しわを多くさせたら気の毒だ。

朝はいつも美容体操をしている

「エリちゃんもやらない？」

と言うがいつもさっさと逃げる。

母はコスモスやすいれんが好き

そぼくな花が好きなんだって、でも私はバラやカーネーションが好きだ。

ほら今も歌っている、何の歌かな……

しかし母は歌が大好きらしい

それも教科書にあるような歌ばかり、歌の練習をすると、下から「もっと強く大声で歌いなさい」と、はっぱをかけられる

母は若い四十才

「そうかね、これでも十七、八のつもりでいるのに」だって……
いつまでも若い母でいてほしい。

それに年をとった母を想像したくないし、日に日に、母は若くなっ

っている。

何かで怒らせようかな

母とケンカしても一時間とはもたない。

私も大きくなったら気持ちだけでも母のように若くなりたい。

いつまでも若い母へ、母の日にはフォークソングが民謡のレコードをプレゼントします。

母は

三・E 黒川真司

今日はいいい天気だ！

青い空

この中に、ぼくは母を感じる。

暖かい日ざし

この中に母がいるような気がする。

いつも、どこにいても

母

子のためにと、やさしく見守ってくれる

人類がこの世に生まれたときに

あらゆるものが母となった

火が、水が、太陽が……

いつも、どこにいても、母はいる

心の中に、自然の中に、思い出の中に
けれど、ぼくの母はやはりひとりきり

子の喜びは母の喜び

母の喜びは子の喜び

いつも絶ちきることができない

いままでの母の苦勞を

こんどは

ぼくが背負ってあげたい

感想文

—冬休みの最優秀作品から—

文彦のふしぎな旅

一・E 白井啓子

「フミヒコ、生きるの、生きつづけるのよ。」といいながら死んでいったニーナ。

この場面をおもい出すたびに、なんと戦争はひどいものなのだろうと思う。

ある先生が「戦争とは、いちばん卑怯なやりかただ」といったのをおもいだし、またこの本を読んでまざまざと戦争のおそろしさ、ひさんさにおどろいた。

この「文彦のふしぎな旅」は文彦という12才の少年のまわりにおけるまざままな、できごとの中で、この少年の生き方をえがいたものです。所は当時満州といわれた中国の東北部にあるハルピン。

ひろびろとした満州。ということが私のこの本をよんでの印象で

す。

川のむこうがわで中国人の女たちが畑で作物をつくっているところ。川だってきつと川はばの広いものでしょう。畑だって日本にある畑の何倍でもあるような大きな感じがします。そしてまっさおな空、この中でくらししている文彦少年はなんとしあわせな、とも思うくらいにとてもよい情景が頭の中であうかんできます。わたしもこんなところでのんびりとくらししていきたい、思ったほどでしたけれども、そこもやはりだんだんと住みにくい場所になっていったのです。この時代は戦争の最中、だんだんと戦争のはんいも広くなり、この満州も影響をうけてきたからです。

いままですべて自由に入りに出たすばらしい植物園も、いつのまにか日本人の兵隊の基地になってしまったのです。遊び場をとられた子どもの気持ちはどうだろう。わたしたちだってすきなものをとられるくらい、いやなものはないから。それならまだしも、文彦少年といっしょに住んでいるニーナのおとうさんが兵隊にとられたのだ。

ニーナの気持ちはわたしにだってわかる。それからまもなく、思いがけなくニーナのおかあさんも開拓団の勤勞奉仕に出かけた。

戦争のために家族がばらばらになってしまったニーナと文彦少年を思いうかべるとたまらない気持ちです。もしわたしもこんな立場になったらと思うとゾーとします。

それから文彦少年たちがくじけなかったのには感心します。しりあいの梶村さんといっしょになって働いているすがたを思いうかべると、戦争当時は子どもでも苦勞していたのにいまは楽だなあと思った。しかしじじつはもっと苦しいのではないかとおもう。もし、

わたしがこの時代にいたらきつと生きていけない、いまのままでは。でもこの時代の人たちは強かったとおもう。こんなじょうけんのあるい中でも生きてきたから、それにこどもまでが。こんな戦争なんかなければみんな楽しく、くらせたのに。ニーナと文彦少年、それに梶村さん。梶村さんは戦争反対の運動をしていたため、いつもけいさつにおわれていた。

ますます戦争は、はげしくなってきました。

そしてとうとう日本が負けて、戦争が終了しました。

しかし、さいなさんがまたふりかかってきたのです。ニーナは白系ロシア人なので強制送還されることになったのです。それを止めようとした梶村さんがニーナをつれにきたソ連兵に射殺されたのです。それにかけよったニーナもうたれました。そして死にぎわに文彦少年にいったのです。「フミヒコ、生きるの、生きつづけるのよ」

わたしはこの場面を見てなみだが出てきました。せつかく戦争がおわってみんなと楽しくくらせるとおもったのにこんな死にかたをして、とおもうとなみだが出てとまりませんでした。そして死ぬまで人のことを思っていたニーナに感動させられました。

「二十四の瞳」を読んで

二・D 大滝 泉

香川県小豆島を舞台にくり広げられるこの作品は、私の心に切々と訴える何かの叫びがあったのを覚えている。

大石先生。瀬戸内海ベリの小さな村の小学校に赴任してきた若い女の先生である。戦前の国民の考え方や、土地からなどから、この先生は村の母親たちに反感をもたれていた。ある時大石先生は足をくじいて長いこと休んだ。生徒たち十二人は、親に内緒で八キロの道のりを、先生の家に向かつて黙々と歩いた。

やがて年月がたち、生徒たちが学校から巣立っていくころには、先生との間にはすっかりとした心の系がはりめぐらされていた。

そして悲惨な戦争は拡大され男の人は戦いに行ってしまう。

戦争が終り、年とった大石先生は再び村にもどってきた。昔の教え子たちが同窓会をひらいてくれたとき、戦争でめくらになった磯吉のことばに、先生は、声も出ず、ほおに涙が伝っていくのを感じた。

この作品にはずいぶん泣かされてしまった。足をくじいて休んでいる大石先生を小さい子供たちがただ会いたい一心でたずねて行きとうとう会えるところ。最後の同窓会で、先生と子供たちのとった写真を見、目の見えなくなった磯吉が目がなくなつてこの写真は見えると言つて戦死した友の名をあげるところ。

どうしてだろう。

それは——大石先生と生徒たちの心が、ほんとうにしつかりと結ばれていたから——その一言につきるだろう。先生は、単に教え子だからということではかわいかったのではないだろう。いや決してそんなことではないのだ。

教え子が、家が貧しくて学校にこられなくなる。あぶない戦争にむざむざとひっぱられていく。それはまちがったことだと知りながら先生ひとりの力ではどうすることもできない。現在の世の中なら、

そんな態度はナンセンス。大石先生も自分ひとりでも悩んでないでどうどう意見を主張したらいいじゃないか——と、軽くあしらわれてしまいそうである。

だが、このころの国民の多くは軍部や新聞の宣伝にまどわされて、戦争はりっぱなことだと信じこんでいたようだ。公然と反対すれば刑務所に入れられたそうである。この小豆島の小さな村ではなおさらのこと戦争で死ぬことは、名譽と思っていただろう。

だから、むしろ大石先生は、正しく社会を見ていたのだ。その意味でも、学校を去っていく教え子、死に行く教え子を見ながら、先生にできることはいっしょに「悲しむ」ということだけだったのではないだろうか。

そして、そんな態度から、真の心の触れ合いが感じられる。それは「先生と生徒」という一見冷たい間がらではなく、「人間と人間」のあたたかい心と心の交流といつてよいだろう。

さまざまな試練も、この一本の糸を切ってしまうことはできなかった。「戦争」これは、みんなにとって最大の試練の時であったと思う。親友を、かわいい教え子を殺し、負傷をさせた戦争。あまりにも無残である。

みんなの叫びが私の胸に響いてくる。

戦争はいやだノ

人間どうしが苦しめあうのはいやだノ

人間のみにくさは

なぜ私たちの幸福を奪おうとするのノ

やさしい心なのに、
美しい瞳なのに——

「禪と人生」を読んで

三・F 笹島信平

宗教とは何だろうか？ この疑問が僕のこの本へのさそいとなった。「宗教、教え」とは偉大なものだ。その昔宗教は人を支配（この場合このことばは適當ではないが）した。そして国を支配し、国を造った。僕が今回想したのは「禪」であるが、「禪」とは鎌倉時代に栄西が宗より日本へひろめようとした「教え」である。「教え」といっても僕にはまだ全然わからない。環境のせいであろうか、氣質のせいであろうか、この本の中に出てくる一の話だが、あるところぼうが寺へどろぼうに入ったそうだと。ところが和尚につかまってしまい、世間から離れて修業をさせられた。その結果彼は悟りをひらいて真人間になったという。それでは誰でもと思つたが、悟るといふことは、||自我に目ざめること||本身を表わすこと。だそうだと。とにかく無我にならなければならないということ。でちよつとやそつとで悟りをひらくことは可能ではなさそうだと。「悟り」についてはあとに述べることにしてここに一つの大きな疑問がある。宗教とは古い（現代に対応できない）考えなのだろうか？ この登えは僕一人で出すだけの知識はないが。

現代では昔と比べると信仰者がグンと減つたような気がする。一方では静かなブームという声もあるが、またおぼんといつては毎年お参りにいつている僕であるが、何のためにこんなことをするのだろうか？ と思う。結局僕たち現代人は形式におぼれ中身を知らずと

というのが大半ではないだろうか？宗教とはそんな無意味なものであっていいのだろうか？しかしこれが現状だということはやはり宗教は現代には対応できないものだろうか？

宗教には他力本願と自分本願とに分けることができるらしい、ようするに偶像（神）に救いを求める方と自分で自分の道を決めるという二通りの考えである。どちらかといえば僕としては自力本願の方が好きである。理由は神に最後に救いを求めるより、自分の力で自分を見い出す方が何かもつと深い意味があるように思われるからである。また、この本では「神は人生そのもの」と書いてある。人生を離れて神はなりたないということのようだ。神とは一口で言うのと先に述べてあるように自我に目ざめ本身を表わしそこから悟りを開くことだそうである。自我に目ざめるとは、非常に困難なことであると思う。すべてを新しい目で最初から見なおすのである。いままでの自分の生きかた、考えかたをまるで違った目で見返すのだ、して本身を表わすとは無我の自己にならなければいけないそうである。「無我」感情を人間から除くことなどができるのだろうか？今のぼくには「無我」ということを考えている以上無理であろう。

この本を読みおえて99%はわからなかった。しかしあとの1%、一番重大な所は何となく自分なりにわかったような気がする。なぜならば少なくとも自分自身の存在というものを改めて見つめることを知ったからだ。やはり宗教とは偉大なものであると思う。それだけに難しいものであると思う。悟りとは人間に必要なことであると。悟りなくして人生はなりたないような気がする。

僕はまだまだたくさんの人々の書物を読みたい。考えたい。そしてこの本をもきっかけにして多くの思想から僕自身の「個」をつく

りたい。

人は考える。

人は絶叫する

人は悩む

人は気がつく

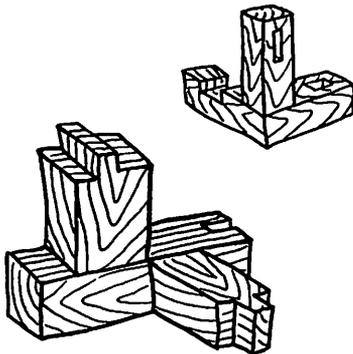
人は目ざめる

そして人は悟る

悟りをひらいた時の空は

いったい……………

何色なのだろう……………



45年度生徒会座談会

10周年を前に

新しく来られた先生と

——学園五稜の前進を語る——



出 席

先生

館 洞 光 宏
佐 々 木 雄 幸
小 西 孝 男
川 原 エ イ 子
村 上 健 介

大 滝 泉 (〃)
名 古 屋 彰 (会計)
目 加 目 由 美 子 (〃)
照 井 真 一 (書記)
高 橋 美 穂 (〃)
渋 川 利 幸 (副会長)
笹 島 信 平 (会長)

司 会

生徒会活動

司会 最初に11月に行なわれた生徒総会についておたずねします。

何かしりきれトンポでおわったという声もありますが、その点についてみなさんどうですか。

照井 生徒の関心を呼び起こしたという点では成功したと思います。渋川 せっかく波に乗ってきたのに時間がなくて残念でした。もう

少し時間があれば素晴らしいものになったと思います。

高橋 やはり議題が少し多かったんではないかというような気がします。

大滝 総務の進行が悪かったように思います。これは反省しなくては……

目加田 これからというときに時間が切れてとても残念でした。

名古屋 (ウーンと少し考えながら) これは総務のミスとして大いに反省すべきだと思います。

司会 ぼくに一言いわせてください。(一同爆笑) もっと深い意味での議題の進め方がほしかった。そういう意味で表面だけけすったような気もしますが、当初のねらいは生徒の関心を引き起こすという点では成功したと思います。

ところで先生方は五稜へ来て初めての生徒総会でしたが、どんな印象をうけましたか。

小西先生 確かにもっと時間をかけてやらせてみたかったですね。

問題点としては一年生なんかは進め方などがよくわからなかったのでは。それから総会後の反省とか総括がなかったのが残念に思いました。

川原先生 やはり一年生のほうから言えばね。今日はこういう議題でどうかとことが話されるかということについて何にも手がかりがなかったように思いますけど……。

佐々木先生 とにかく寒かったよね。すごく寒かったよ。時間の問題もあるだろうけど、先生が感じたのは生徒一人一人の考え方も凍ってしまったのではないの。つまり自分のからの中にとじこもって五稜中学校の生徒総会だという意識にとぼしかったのではないかなあ。

館洞先生 先生は二つばかり感じた。一つは、ぶっつけ本番にしてはうまくいった。ただしもう少し学級の問題を考えてどう解決していくかをほり上げていえるはもっとおもしろいものになっただろう。もう一つは、代表者制もおもしろい試みだと思う。ただし代表者同志の討議で終わってしまいそうなので、他の生徒に生かすためにももう少し考えるべきだった。

村上先生 最後になると言うことがなくなるけど、役員がきわめて積極的にとりくんでいたことは好感がもてたね。いろいろ問題はあったにしても、ともかく総会が開けたということは、君達の努力の成果だろう。これからもっと工夫をこらしてより素晴らしいものにしてほしいですね。

館洞先生 前の学校では頭髮問題だけにしぼって生徒総会をもったことがあるのだが、これは活発だったなあ。坊主にするか伸ば

すかは、生徒にとれば真剣な問題だろうからね。そうすると意見も自然に多くでることでしょう。

司会 貴重な先生方の御意見が数多く出ましたけれども、一年間生徒会の仕事をしてつくづく感じたことがありましたらどうぞ。

目加田 一年がすぐ早く終わったというのが実感です。

大滝 決して楽な仕事ではなかったけれど、それなりにやりがいのある一年間でした。

高橋 実際に仕事をしてみると、現実のきびしさというものを感ぜさせられました。

渋川 全校生徒の代表という意味で一つ一つの仕事に責任を感じました。

照井 八百名の生徒を動かすということは大変なものだということを知られました。

名古屋 一つの仕事をしようと思ってもいろんな問題が出てきて思うように動けなかった。

司会 それぞれみなさんの体験がにじみでたことばですが先生方はぼくたちのこの一年間の生徒会活動をどう評価されますか。

佐々木先生 君達は責任感が旺盛で実に意欲的でしたね。ただちょっとひっかかったのは、意識が高いというか多くの人を動かせなかったのではないかなあ。

村上先生 そのことに関連していえば、各種の専門委員会などをひとつフルに動かすことを考えてみればよかったですよね。確かに優秀なメンバーがそろいすぎているから、から回りという面もあったかもしれませんね。

川原先生 一年生は自分達の悩みや意見が生徒会にどうつながっていくのかということが具体的にわかっていないんですね。そういう点でも少し細かく知らせてもらえれば、もっと身近なものに感じるのではないのでしょうか。

小西先生 先生は小学校から来たので生徒会というものがよくわからないのだけれども……特定の人だけが先行するという形だけはやっぱりうまくないのではないかなあ。上と下との交流というか連絡が常に密でなければならぬと思いますし、やっぱり身近な問題から解決していかねばならないと思います。館洞先生 とにかく、いろんな問題はあったにしてもあんたがたは熱心によくやったという気持ですね。そういう意味では先生は敬意を表したい。

運動会

司会 話題は変わりますが、今年のおもな学校行事について話を進めていきたいと思えます。まず、運動会についてですけれども、何か感想がありましたらどうぞ。

名古屋 ぼくの希望としては企画に生徒会もぜひ参加させていたいただきたいと思えます。

渋川 運動会はみんなでやる楽しみがあるという良さがあるけれども、ぼく個人としては競い合うような競技ももっとふやしてみているのではないかなあ。

目加田 私は競技会形式に近づけた方がいいとは思わないんです。今までの運動会形式の中でお母さん方と子供達とつながりが、

もっとあった方がいいのじゃないかと思ひます。

照井 ぼくも運動会形式の方がいいと思ひます。その方が生徒に親しまれるのではないですか。

高橋 競技会形式というものは他にやっているもので運動会のほうがよいと思ひますけど、もっと盛大にやってみたらどうでしょう。たとえば、前夜祭をやるとかもう少し馬鹿騒ぎをするのです。そして、ムードを盛り上げるのです。

大滝 私は三年生のハードリングなんかで男女一諸に二人三脚をしていくというような競技は下級生にしてみればとてもうらやましいです。(一同爆笑) だから運動会のほうが好きです。勝ったり負けたりするのもそうですが、楽しいということも欠かせない要素だと思ひます。

司会 先生方はどのように御覧になりましたか。

館洞先生 独特の楽しさというか、こういうものは大事にしたいですね。それが五稜の運動会の他校にない良さでしょう。

川原先生 全くの競技会形式を二年間やった後に、五稜の運動会を見ただけでねー。なごやかさとか明るさとか親しみという点では最高でしょうね。あなたが言うように、残しておきたいですね。競技会形式ではとても望めそうもないですよ。

村上先生 先生は仕事の関係で市内のいろんな学校の運動会や体育祭などを見ることありますけれども、五稜のような運動会は市内でも数校だと思ひますよ。ただ、体育の授業内容が高度になつてきてそれをどうするかと考えれば、競技会形式の形をとっているのは当然の意見だと思ひうけど、欲を言えば両方の形式でやらせたいナーと思ひます。

小西先生 ウ……ム。皆さんの言っていることは良く解るんですけども、ただのお祭りというよりやはり体育の時間の延長というか、発表の場として先生はとらえたいね。だって体育の先生だもの。(一同爆笑)

文化祭

司会 次に文化祭についてお伺いしますけども、今年は生徒会なん

かも新しい試みをもつたわけですが皆さんの感想をどうぞ。

大滝 私個人としては文化祭といえは二年続けてやった弁論のことが頭に浮ぶんですけども、今年新たに企画した若者の部屋がもう少し広くて進行がスムーズにいけば良かったと思ひます。

波川 変な感想ですけども弁論なんかで禁止されていたヤジがあったのは印象的です。やはり出る人の立場になつてみれば、当然のことですよ。

館洞先生 励ましとか同感とかいうことで出すのならいいんですけどもやはり変なヤジはつつしむべきですね。

波川 皆さんがそう言いますけど感動ならばいい、ヤジならためだということ、一人一人が何かを言ったとしたらどういうことになりませんか。(口をとがらして)そこらへんのけじめが中学生には中々つかないのです。だからぼくは、禁止という線ではないと思ひます。

高橋 私の場合は家庭科クラブでペーパーフラワーを売り出したんですけどもすぐ売れてとてもうれしかったです。ただフォークダンスで男子がたった四人しかいなくて、それに先生方もいなくて残念でした。

照井 ぼくは演劇一本というのはやはりさびしい気がしますね。学年から一つというふうにもっとパワッと盛大にやれないものでしょうかね、そういう意味では前夜祭などをやって先生方とグラウンドで火をたいてバカ騒ぎをするのもいいものですよ。こういうことが学校生活の良い思い出になるのだと思います。

目加田 いろんな意味でもっと多くの人達が積極的に参加して文化祭を盛り上げる必要がありますよね。私が疑問に思うのは文化祭って文化部だけなのでしょうか、ということですよ。

名古屋 ぼくは一年から三年まで理科クラブにいましたので、文化祭といえばお化け屋敷を連想するのです。大変評判が良かっただけに苦勞のしがいがありました。不満に思うことは文化部の展示を見ると、毎年同じようなものでたいした発展性もないということですよ。もっと新しい工夫を試みたらどうですか。

司会 先生方は。

川原先生 学級プロフィールなどは良かったですね。もっとお金をかけたからおもしろいものもできるのに、と思いました。生徒のことで言えば、ここの生徒は団体行動のとり方がへたですね。

村上先生 是非触れておかなければならないことは、食堂などでお母さん方の苦勞は大変なものですよ。ほとんどの人は自分の子供の演技は見えていないのではないですか。このまま好意にすがって、いいのかなあとつくづく思いました。総体的にはりっぱな文化祭だと思います。

館洞先生 先生自身はとても楽しかった。若者の部屋などで特殊な人達が活躍するのではなしに、フォークソングなどをみんなまで歌えればもっとよかったです。

佐々木先生 僕の番だね。(一同爆笑) あのね、学級対抗をやったでしょ。みんなは気がつかないだろうけれども、先生の目から見るとね、ああいうのがあるためにクラスの中が明るくなっていくですよ。あれを通して学級がしつくりいくんだね。あれがいいんだ。

小西先生 先生は何もかもめずらしくてりっぱなもんだなあと思っただけれど、英語劇なんかはもっと工夫する必要がありますでしょうね。どれだけの生徒が理解できたかは、まだ疑問に思う。それから最後に言いたいことは合唱コンクールや弁論などでふんいきが盛り上がったところでその日に順位をつけたら、もっと盛り上がただろうね。むずかしい点もあるだろうけど。

修学旅行

司会 では次に修学旅行について話してもらいます。

照井 第一日目の旅館でぼくたちはすごく騒ぎました。あまりにも騒ぐので旅館の人が変な顔をしてみつめていた。あの顔が一生忘れられませんね。

川原先生 五稜の中学生があばれたのですね、ある中学校で遊ばせてもらえなかったという話を聞きましたよ。(一同爆笑)

照井 朝里川だよなあ(皆うなづく)

渋川 今でもはつきり残っているのは、旅館の食事のおかずには毎日スパゲティばかり出て、朝はみそしる。たたいてみればプラスチックの入れ物でした。そんな旅館だったけど、最後の日旅館の人と友達になって別れるのがいやになった。

照井 女の人ですか。

波川 (うなずく)

照井 いいですね。(数人くすくす)

高橋 ほんとうに楽しかったですよ。ただコースが重なっていたと

ころがあったのでそこがちょっとね。もっとコースを変えたり旅館だけじゃなくてキャンプなども加えた方が良かったと思います。

目加田 新しい試みがなく毎年同じコースを見学して、旅館で騒い

でというふうなものでしょう、修学旅行というのは。もう少しクラスだけではなくて全員で楽しめるキャンプファイヤーなどを入れたほうがいいと思います。

名古屋 ぼくも旅館のことがとても印象に残っています。消燈にな

ってからだれかがまっ暗な中で枕を投げました。(一同爆笑) そのうち枕どころかふとんまで投げた人がでてきて、本当にどうなっているんだろうと思ってね……(一同爆笑)

ぼくもまあ適当にさわぎましたけど、あんまりさわぎすぎて声の出なくなつた人もいました。(また一同爆笑)

まだあります。あまり下がうるさいので、のぞいてみないかということになって、たたみを全部はぐってしまったのです。あんまりめいわくをかけない程度にね……

司会 先生方も若き頃のことを話してくれませんか。一番年寄りから。(一同けらけら)

村上先生 小学校はさておいて、中学校の五年今でいうと高校二年

ぐらいで関西を回った記憶があります。思い出といえはさつき枕を投げたといったけど同じようなことがあったんです。奈良の旅館である人が枕を投げた。そうしたらみごと大きなシャン

デリアに当ってこわれてしまった。それで先生方と一晚中話し合いをした。もちろん翌日はどこをどう歩いたかさっぱりわからなかった。(爆笑)

館洞先生 次の年寄りはねえ。(一同爆笑) 先生の際は終戦が近かったもんだから、歩いて見送って一泊して終り。先生を中心に将来についていろいろ話し合った。そんな記憶だね。

佐々木先生 次は？年の順番だよ。(一同爆笑)

川原先生 私はそうねー。三つの学校を卒業したけれども、小学校の時に日帰りの修学旅行しか経験しなかった。そういう点では最もみじめな時期でなかったかなあと 생각합니다。朝早い船で津軽海峡を渡って水族館を見学して夜帰ってきた。五円のおこづかいを持っていったのです。家族におみやげを買ったりして

もまだありました。すごくいい修学旅行でしたよ。

佐々木先生 先生の場合はー。年の順からいうところいうことになるわけだね。(一同爆笑) ちょうど先生は旧制中学校の一番最後の生徒だった。だから戦後の混乱期ということで、残念ながら経験したことがないということが経験ですね。(一同爆笑)

ただ先生をしていて修学旅行に行く機会がたまたまありますけど、なんというのかなあ、先生の目を盗んで何かこそそそやるのも楽しみのひとつなんだろうね。先生も生徒も素直に裸になれるというところがいいね。(一同爆笑) 裸というのは心のふれ合いがあるということだよ。

小西先生 先生は一番若いから記憶もなまなましい。そのなまなましい話を。中央中学校なんだけれども、当時今ここにいる教頭

先生や藤原先生もいるから何か変な気持ちだけど、その時は三

泊四日で東京の方に行っただけです。ところがどういうわけか四十人くらいのクラスで女生徒が九人しかいなかった。それが残念でね。それから寝てる間に赤チンキをぬったくって、朝起きてみるとびっくり……。これから話すことはのせないでくれや。飯を食う間ににぎり飯を作って、それからおもむろに食べるんだね。話を続けたいけど、どうものせられそうだからやめとく（一同爆笑）とにかく一番感じたのは、ふだんあまり目立たないとかすこおとなしい人がああいうところに行くものすごくキャッキョウ騒いだりしてね。友達を見る目が変わった。そういう記憶があるね。

村上先生 いずれにしろさつき目加田さんから出ていたキャンププ
ァイヤーなごの問題については来年度は当然それを考えています。
ただ見て歩くだけでなく、その中に集団として動く訓練をする
とか、修学旅行の内容は変わってきますよ。君達からそういう
問題がでてくるとは思わなかったね。生徒なりによく考えてい
ることがわかり、参考になりました。

司会 修学旅行について先生がたからおもしろいお話がありました
が、話はずっと変わって、先生方にお尋ねします。新しく五
稜の学校にこられて生徒の授業態度について何か感じたことが
ありましたらどうぞ。

授業態度

村上先生 学習意欲の高い子が多いですね。だからクラス全体
の空気が勉強しようという雰囲気にはなっていますね。ただ一
人一人がどこまで努力しているかという点になるとちょっと疑

問ですけど……。やれる時は思いきってやってほしい。
佐々木先生 先生が感じることは先生がひいた路線の上には乗って
くるけど、そこから一步はみ出して自分なりに考えたり努力し
たりする点ではもの足りないものを感じますよ。授業中に答え
る。意見も素直で、明るいのはいいけれど何か規格的な答えし
かでて来ないのはもの寂しい感じもします。

川原先生 そうね。佐々木先生と同じようなことを感じますけど、
答えるときなんて慎重になりすぎている傾向がありますね。も
っとふだん使っていることばでいいから構えないで発表できた
らいいと思います。

小西先生 体育という教科から見るとすごくあきらめが早いとい
うかどにかくやってみるんだという気迫がほしいような気がす
るなあ。結果はどうあれ、もう少しとび込こんでみよう。とりく
んでみようという迫力がほしいような気がする。野性味とい
うのかあんまりおとなしすぎるような気がします。

館洞先生 みなさんおっしゃったことがみんな当てはまっていて私もそう
思います。比較的まじめでよく勉強して優秀な生徒が多い学校
だと思えますよ。ただね「なぜ」というふうな自分なりに発展
させて考えるところは不足しているんじゃないんですか。
習ったことはわかりそれがペーパーテストに書かれているだけ
というのはいくつかの人生、寂しんじゃないんじゃないんです
かね。

新生徒会と生徒に

司会 大変参考になりました。今度はみなさんから新生徒会や生徒

に要望することを。

渋川 身近なことからどんどんとりくんでほしいということ。例えば便所のらく書きとか髪型という問題から全校生徒には自分がいなくなったら、五稜は成り立たないという考えで生活してもいいですね。

目加田 私達の方で姉妹校を計画しながらできなかったのが残念です。それから生徒会誌の仕事などをやっています。期日までに原稿がとどかない。こういうのは早くもってきてほしいと思います。大滝 全校生徒のみなさんに言いたいことは自分がどんな立場にあつて何をしなければならぬかということに常に考えてもらいたいということです。

高橋 学級活動をもっと活発にして下からどんどん生徒会を批判したり、激励したりしてほしいものだと思います。

照井 ぼく達はよくアンケートを出したんですがそのアンケートにまじめに答えてくれる人が少ないのでまじめに書いてもらいたいです。

名古屋 生徒会誌のことについてですが、年々よくなってきています。五稜の歴史の中で今年なんかは一番いいんじゃないですか。こういうものは全校生徒に一番役立つものですからうんとお金をかけるべきだと思います。

笹島 ぼくにも一言。生徒会というのは口で言うほど簡単なものではないのです。自分達の学校を少しでも良く、住み良い所にするために、生徒会の役員もそうでない生徒も一心同体にならなければなかなか理想を実現することは困難なことなのです。そういう意味で一人一人が五稜の生徒だという自覚を持つべきで

す。

五稜の生徒

司会 最後に先生方にお尋ねします。五稜中学校の一番好きなところとは是非改善したいことを一言ずつお願いします。

村上先生 一番いい会長に大変いい先生がいて、そして、一人一人いい子がそろっているそれがいい点だと思う。改善したい点はまだ少し全体のこと他人の立場そういうことも考え、考えるだけじゃなくしてすぐ実践できる子どもに育ってほしい。

館洞先生 いい点。生徒が素直である。非常に勉強する。欠点。協力の態度がない。物事に積極的につぶかる態度に欠ける。個性ゆたかな人間になってほしい。

川原先生 良い点はみなさんと同じ。直してほしい点はあと始末が悪い。例えば自分がおとしたごみだとか図書館から借りた本を返すとか。そういう簡単なことができないですね。

佐々木先生 いい面でも、悪い点でも都会っ子だということだ。ちょっと気になるのは平均的な人間が多いということ。物の考え方、人間関係、全部です。

小西先生 いい点は、先生と生徒が親しいというか、わりと人間関係ができているといふこと。ほんわかムードというかそんなところがいいですね。直してほしい点は自分の物は大切にしてください。人の物だとかみんなんで使う物を粗末にするという点です。これは是非改めてほしい点です。

司会 みなさん、長い間本当にごくろうさんでした。これで今年度の座談会を終わります。

卒業の光

北海鷗亭書
誠協 眞探
実調 理求



思い出の学窓

三年の学級担任



3年A組 竹内先生



3年B組 進士先生



3年C組 斉藤先生



3年D組 金田先生



3年E組 岡本先生



3年F組 蘇馬先生

修学旅行



またスパゲティだよ〜ん



「ウム、ムニヤムニヤ」
寝言のコーラスあの旅館だったかしら？



アイスクリームばかり食べて
夜中に起してやらネエゾ



私、イイ顔に写ったかしら？
じつぶつ通りだよ



残雪の美で心を洗う



学校に帰りたくないなあ

修学旅行



太陽があびて牛乳ゴクリ
バスは見事にバンク……かな



こんなカッコウデーの
スケッチさえないなあ～



エッチな風ねえ



ウーム！この絵じゃ美術は1だなあ



怪獣が海獣を見に行く
そんなことってあるかしら？



アリヤー、またおかわり？大丈夫かしら



實際的な知恵

A組担任 竹内 巖太郎

「交友すべからく三分の俠氣を帯ぶべし」
洪自誠という人の書いた菜根譚という中国の書物の中にあつたことばを、私はよく生徒に話すことがあります。友人と交わる心得を説いたもので、友人の為に十の中三つは犠牲になる気持ちを持たなければ、友情は育つていかなないということを教えています。

人間というものは自分勝手なものです。利益や損得で行動するものです。反面愛情や友情というものを人間は大切に思い、これらのことは利害や損得を離れた無私のことだとも思われています。文学や映画の世界にはこのような美しい人間がよく描かれていますし、ジャンバルジャンに対するミリエル司教のような崇高な人が全くいないなどとは私は言いません。

けれども人生を長く生きていくうちに菜根譚のことばが實際的な人間の知恵であることに思いあたってくるのです。

希望と理想に燃えて人生にスタートしようとしている君達に対する餞別のことばとしてはふさわしくないことを書いてしまったのかも知れませんが、心の隅に留めておいて頂ければ何かの役に立つ日があるのではないかと思っています。御多幸を祈ります。

卒業生に

B組担任 進士 繼昭

君らと出合いをもつてから、時の流れははやいもので、もう別れを迎えるころとなつた。出合いから別るに至る「ふれあい」は私の心と君らの心とが互いに許しあい、うちとけあうことよつて、結びつけられてきたと思う。

また、このふれあいの絆は穏やかな語りあいや怒声、笑顔やげんこによつて強められていたように思う。君らの一人一人とふれあつたものは多様であつたが私の裸心から表出した言動として感知してくれたと思う。

ひとと出会うことは容易でしょう。だが、

出会つてから、ふれあうことは難かしいものでしょう。中学生活の短時間では、ほんの弱いふれあいの絆しか生れないものでしょう。だから、君らとのふれあいを大切に育てるために、卒業の時期をいまままでのふれあいを強めていくための始まりとしたのです。

いつの日にか、この絆を強めあう機会があると思つていきます。

「見えない糸」

C組担任 斉藤 正宏

「センセイイ」Aさんが小走りに近づいて来た。彼女は、中学時代楽しそうに卓球の練習をした。クラブの仲間と一緒に、合宿のまね事をした。堅い板の上に寝、同じ釜の飯を食べながらいろいろな話をした。「クラブは楽しかった」優勝旗を手にした後、彼女が話した事を担任の先生が教えてくれたつけ。

神戸に居るB君から、何回目かの手紙が届いた。神戸に遊びに来るようにも書いてた。彼らは、計画してしまつてから誘いに来た。彼もまた「大学に合格したら、先生にネクタイを買ってもらうのだ」と自分で決めてしま

った。彼は自分の事を必ず「ボク」と言う男だった。人間は、一緒に何かをする事で理解し合い、心の結びつきができるのでしよう。人間の魅力って外見だけではない。素直で一生懸命な姿って美しい。君達の姿が、私の心にもいつまでも美しく焼きついていることでしょう。B君がどんなネクタイ選ぶのが、私は楽しみだ。

「井の中の蛙」

D組担任 金田 豊秀

どちらかというところ、龍安寺の石をながめ、苔寺の静かな縁にひたっている方が好きである。そうはいっても、いつもそんなことを望むのは欲が深いというものであろう。

上野のホームに降り立つとき、いつもながら私は、あのあわただしい人ごみの中でいささかのとまどいを覚える。じっとしてられない。みんなが動いている。だから、自分もまた、その人なみにしたがって、あるいはかきわけて、どうしても動かないでいられなくなってしまう。それがまさしく東京であり、そこに、生きることのすばらしい躍動ときび

しさとをひしひしと知らされるのである。ふだんの生活の中で、他の地に刺激を求めるとはなかなか難しいことであるが、また「井の中の蛙」にはなりたくないものである。与えられた生活の場で、いつも何かの刺激を求め、感じつつ、精いっぱい生きる——少なくとも私たちは、そういう心を持って生きたいものであると思う。

健康第一

E組担任 岡本 守

現代の社会は、目まぐるしく変わっていく。そのテンポは、一年と、同じかたちをとどめていないほどの速さです。

これから諸君は、この現代社会の中で、一体どのように生きていかなければならないかを真剣に考えてほしい。

今、中学生生活で、何を感ぜ、何を学び得たかをかへりみたととき、自信を持って答えられる者は、はたして何人いるだろう？

競技会で、汗を流し、歯をくいしばってがんばった根気、文化祭での協力の成果など思い出して、これからは、いろいろな環境の中

で、現代社会に生きていくための努力と意欲をもやしていつてもらいたい。

それぞれ個性にあった社会の要求を、自ら学びとって、坐折することなく、自省の心とともに、前むきの姿勢を失なわないでいてほしい。

最後に一言、なににごとも健康第一、卒業おめでとう。

勉強について

F組担任 蘇馬 辰郎

学生の本務は勉強であるという。だけど、勉強とは、学生の時だけののだろうか。私は勉強とは、一生継続するものだと思う。私達がなさねばならない勉強は、物凄くたくさんあり、学校の勉強は、あくまで基礎的なもので、全体のほんの一部にすぎないと思う。さて、次に、勉強の仕方について考えてみる。今の生徒はやらねばならぬことが多すぎるのか、勉強法が余りにも直接的で簡便すぎるのかわいだろうか。結果を早く出そうとすすぎて、途中の経過をないがしろにしている勉強が多いのではないか。例えば、漱石の作品に「坊ち

ゃん」がある。漱石『坊ちゃん』と覚える。その小説を全然読まないで、作品と作者の名前を暗記する。それで漱石の坊ちゃんが判ったとしたら、大間違いである。終局的に覚えることが目的なのだろうが、その精神、内容をくみとらないでは、本当に覚えたことにはならない。先に勉強は一生続くと書いたが、学生時代に覚えることには限度がある。だから覚えることより覚え方を覚えるのが大切だと思う。廻り道しながら、余計なことを考えながら、苦勞して覚えたものは、忘れない。たとえ、その時は試験に関係なくとも、順位がめだつて上らなくとも、最後には実力がついているものである。



あこがれ

三・E 西沢京子

あこがれをいだいて今旅たつ私

その旅先で

私のいだいているあこがれが満たされるか

それはわからない

私のあこがれ——

それはまだ漠然としているけれど

いつかは現実の姿となって現われるかもしれない

すべてを忘れただひたすら母を慕う子のように

小さな一つの希望を求めている私

その希望は現実となって現われはしない

ただのあこがれにすぎないかもしれない

それでもひたすら求めて行く私



三年 A 組

前進 また前進！

市内五稜郭町

相田 政志

今日成しうる事に全力を注げ！

市内白鳥町

鎌田 恵子

来年入試もあるぞよ 何か変だな！

市内五稜郭町

磯 和樹

第三の壁に向って前進！

市内白鳥町

木村 雪子

授業は長いが 三年間は短い

市内五稜郭町

梅本 一成

意志あるところに道あり

市内白鳥町

工藤 美子

人生という山は険しいぞ！

市内八幡町

緒方 高志

友情は信頼から始まる

市内八幡町

今野 喜代

扉の向こうの明日へ前進！

市内八幡町

小川 毅

人間のな人間になれ！

市内八幡町

今野 喜代

たった一言「あばよ」

市内五稜郭町

大高 光男

自分の足で歩く時、人生は始まる

市内五稜郭町

坂本 梨

おれは不死鳥になりたい

市内田家町

大森 康隆

未来に向かって大きくジャンプ！

市内田家町

杉山久美子

三年生は未熟だなあ——

市内宮前町

川内 辰夫

可能性とは 限りなき愛である

市内宮前町

住吉とし子

三六四歩後退、一步前進

市内田家町

川内 弘巳

「真実一路」の道を

市内五稜郭町

能正 和子

光ある限り 未来に向かう

市内宮前町

小林 正広

真剣の前に不可能なし

市内田家町

比企知加子

希望を捨てた時、人生は始まる

市内宮前町

斉藤 篤

常に前進！前線は厚い

市内五稜郭町

比企知加子

わが友よノ遊べノ勉強すんなよノ

市内宮前町

新保 篤

希望に向ってわが道を行く

市内田家町

藤本 優子

この世をば 地獄と思う我が心

市内田家町

菅 弘明

若者よ おのれの道をまっすぐ進め

市内田家町

三浦 厚子

三億円犯人はすみやかに密告せよ

市内宮前町

関口 寿徳

青春時代よ ぐんぐん道め！

市内白鳥町

三浦 厚子

あ、.....

市内田家町

田中 哲

希望をもって遠い未来へ

市内八幡町

三山崎 典子

「アサ——」

市内五稜郭町

長井 賢一

信じ合う喜びを大切に

市内田家町

渡辺 優子

一九七〇、天皇大万歳！

市内田家町

野中 俊沼

若者に過去はない?? 未来に進め!!

市内田家町

渡辺 優子

未来に向かって前進！
努力こそ勝利！

市内八幡町

花田 泰夫

「耐」

市内宮前町

番重 敬信

時間よ止まれ！無理な話です。

市内田家町

山口 邦夫

未来を目指し一步一步前進しよう

市内田家町

石塚 純子

若者よ 目をさませ！

市内田家町

上田由美子

厚い壁を突き破れ！

市内田家町

小川しのお

第三の壁に向って前進！

市内田家町

葛西 千春

意志あるところに道あり

市内白鳥町

粥川美樹子

友情は信頼から始まる

市内白鳥町

木村 雪子

人間のな人間になれ！

市内八幡町

工藤 美子

自分の足で歩く時、人生は始まる

市内五稜郭町

今野 喜代

未来に向かって大きくジャンプ！

市内田家町

坂本 梨

可能性とは 限りなき愛である

市内宮前町

住吉とし子

「真実一路」の道を

市内五稜郭町

能正 和子

常に前進！前線は厚い

市内五稜郭町

比企知加子

希望に向ってわが道を行く

市内田家町

藤本 優子

若者よ おのれの道をまっすぐ進め

市内田家町

三浦 厚子

青春時代よ ぐんぐん道め！

市内白鳥町

三浦 厚子

希望をもって遠い未来へ

市内八幡町

三山崎 典子

信じ合う喜びを大切に

市内田家町

渡辺 優子

若者に過去はない?? 未来に進め!!

市内田家町

渡辺 優子

楽しかった三年間

明日より今日をたいせつにノ

自由な意志、個人の尊重

精神一到、何事かならざらん

男は黙って命預けます!!

俺ハ俺ノ

大きくはばたけわが青春ノ

どうせ、この世は、でたとこ勝負

我々は身を風のものとし

生徒の進歩と調和ニ五稜

友よ未来を見つめよ自分の未来を

故郷の若木よ清らかにあれ

生徒はだまって卒業証書をもらおう市内五稜郭町

努力なくして勝利なしノ

見つけろ友をノ学べ団体生活をノ

成功させるために失敗しようヨノ

進め若者ノはばたけ青春ノ

人間は勉強だけでなく心だノ

責任感ある信頼される自分に

出発だノ新しい情と誓とへ

個性をいかし迷わず進めノよい道を

自分自身の意見を持つとう

つきない友情 つきない友

友と協力はるかな道を

市内田家町

市内白鳥町

市内白鳥町

市内五稜郭町

市内田家町

市内白鳥町

市内五稜郭町

市内田家町

市内田家町

市内八幡町

市内宮前町

市内五稜郭町

市内柳町

市内柳町

市内柳町

市内柳町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内田家町

市内柳町

市内柳町

市内白鳥町

市内田家町

小倉 仁

齊藤浩一郎

齊藤 義和

笹島 信也

佐藤 司

佐藤 裕樹

渋谷 義幸

田原 源二

外崎 誠治

中田 健一

新田 祝久

野村 栄祐

松本 聖一

宮崎 博司

向井 俊彦

山田 隆嗣

山本 敏雄

高橋 孝一

朝風以知子

浅川百合子

伊藤 敦子

伊藤由美子

今井 レイ

遠藤 牧子

何ごとでも人間は必ず成功する

険しい道を最後まで

青春の道つき進むノ

先生ノおたっしゃでー

友情とは成長の遅い植物である

ああ、一四歳の少女は……

明日に向かって撃て!!

なにごとにも努力あるのみノ

若者よノ青春をいつまでも

打ちならせ自主の鐘の音ノ

自分で築け成長のピラミッドノ

未来に向って走ろう!!

さあ若者よ手をつなぎ世界平和を

市内松陰町

市内五稜郭町

市内田家町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内白鳥町

市内田家町

市内田家町

市内宮前町

市内白鳥町

市内田家町

市内柳町

市内田家町

市内柳町

市内柳町

市内五稜郭町

市内田家町

市内田家町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内白鳥町

市内白鳥町

市内八幡町

市内五稜郭町

加茂 洋子

木皿 良子

鈴木 幸子

高橋久美子

館山 一技

玉木 康子

堂山 薫

飛内寿美礼

中村恵美子

鍋倉 圭

野崎 恵子

水戸百合子

村山和佳子

阿部 康毅

一戸 幹夫

小笠原 秩

片山 靖之

加藤 慎二

金沢 達也

金沢 寛

菊地 慎一

小上 一郎

三年 D 組

点数計算の○点の答案用紙

現実生命を賭けるノ

学園こそ真の友だった

夜の見方とよだれのたらし方

人生の生きがいを見つけたヨ

言葉のいたわりこそ真のやさしさ

何もしなくてどうもすみません

くたばれ!!GNP

〇〇〇〇パンチの防ぎかた

悪い遊び、そして悲しみ

——無——

教科書、ただで二十八冊もらった市内五稜郭町

三年間でためた参考書と簿知識 市内五稜郭町

避—悲—秘—卑—。顔 市内五稜郭町

すばらしい友情のきずな 市内田家町

スポーツだけが楽しみで 市内五稜郭町

身についた友情・努力 市内白鳥町

朝の看護のイヤミな顔 市内港町

人の心の中を見通せなかった私 市内八幡町

先生のイヤミな とばと悪友達 市内五稜郭町

三年間、ためにためた答案用紙? 市内白鳥町

計画実行は悪友達のチームワーク 亀田町富岡

勉強ばかりが青春ではなかった。 市内八幡町

夢のように去った三年の月日 市内宮前町

誇り高き制服とすばらしき友情 市内田家町

今 政樹

佐々木信一郎

鹿内 優

洪川 利幸

鈴木 勝晴

須藤 恋一

高瀬 勝行

田中 進一

千葉隆一郎

鶴賀谷 正

名古屋 彰

林 藤男

山田 義孝

藤森 之美

阿部志津子

川上 良子

小島 桜子

後藤 裕子

佐藤 裕子

庄内 厚子

鈴木久美子

住吉志津子

田中 摂子

常田 和子

野年村知子

ちっぱけな成績表と、大きな友情市内五稜郭町

女らしさと男らしさ、何だこれ? 市内田家町

喜び悲しみ、そして友情 市内田家町

ただの教科書と安光りの友情 市内田家町

あこがれていた先生の痛いげんこう 亀田町本通

二度と味わえない数々の思い出 市内田家町

十四歳で恋を知り十五歳で……? 市内白鳥町

希望を持って前進すること 市内白鳥町

三年 E 組

わかるまい このつらさ 市内白鳥町

今日より明日を知れそして希望を市内五稜郭町

理解することによって道は開ける 市内田家町

なにも言わずに来る青春に向かう 市内白鳥町

涙をこえて「ドカン」と一発ノ 市内五稜郭町

通り過ぎた水では水車は回らない 市内八幡町

友情 市内白鳥町

苦しみを乗りこえろ!! 市内田家町

これで義務教育は終わった 市内宮前町

努力のあとには栄光あり 市内田家町

栄光のために努力ノ 市内白鳥町

一歩後退二歩前進するべー。 市内田家町

地獄へ出発だ さいなーら 亀田町富岡

くよくよするのはもうやめさ 亀田町赤川通り

堀江めぐみ

百足 礼子

目加田由美子

山内 道子

山田 明美

山中 早苗

山野井幸子

板倉 範子

阿部 嘉和

荒谷 彰司

伊藤 卓

菊池 正巳

久保田 光

久米田 稔

佐藤 英明

沢田 信之

白井 純次

高木 秀一

塚本 裕樹

佐藤 弘樹

出羽 道則

長沢 勝彦

りこうぶるのももうやめさ

学ぶ喜びをかみしめよう

今日は昨日をこえている

忍

誠

「開魂」一言につきる!!

これからも絶えていく苦しみの壁

故きを温ねて新しきを知る

過ぎたるはなほ及ばざるがごとし

前進、前進、又前進

今の一秒が勝利の涙をつくるのだ

長かった三年間

なんでも話せる友をもて

幸福へ向って飛びたい

一步一步その目標に

友情とは永遠の友なり

あこがれは遠い空のかなたに……

奇跡は最善の努力である

嘆き

希望ある道

勇気を持って全力で突進

愛することは昔への「旅」

友情ってすばらしいて

若き燃える青春は一度だけ

市内田家町

市内八幡町

亀田町富

市内白鳥町

市内五稜郭町

市内田家町

市内田家町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内白鳥町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内五稜郭町

市内白鳥町

市内白鳥町

市内日吉町

市内五稜郭町

市内八幡町

市内八幡町

市内宮前町

市内五稜郭町

市内柳町

船水 亘

花田 賢一

仲川 俊之

本間 晴美

吉村 睦生

松田 直幸

池田 真弓

石田 亮子

菊池タイ子

小甲 美幸

五島 伸子

佐藤 輝美

佐野 敏子

下野 洋子

新城美恵子

田中 裕子

西沢 京子

西沢 京子

細野 香

松本のぶ子

三井 雅子

矢吹 真澄

山野三千代

吉村 広美

苦しみの驛の向こうには幸福が 市内五稜郭町

三年 F 組

初心忘れるべからず

ああさっぱりした!!!!

光ありこの青春

若人よ青春に向って直進せよ

卒業しても勉強仕事にうちこもう

無

It you go away、

I LOVE NATURE

先生弱しなれど生徒は強し

波ハ碎ケレガ当テ岩ハ碎カレム当タラレテ

過去を語るより未来を語れ!

愛する未来へ たゆまぬ努力!!

俺が去っても悲しむな

きちがい気違いキチガイ狂人亀田町赤川通り

若者よ青春に炎をぶつけろ

sty. case 何になる

若しみ血に塗れた三年間さらば!!

苦難の道は栄光につながる

常に「今」を生かし悔いを残すな

神よ母校を去る事ゆるしたまえ

魂を入れる

吉村美樹子

今村 光毅

江縁 雅美

笠間 弘之

亀谷 正人

木村 稔

久保田健一

黒川 真司

桑田 祥司

笹島 信平

庄内 利和

菅田 雅之

高島 英桜

花田 史郎

平田 寿

松田 勉

村井 知則

森田 彰

山崎 正佳

山村 悟

渡辺 豊秀

オレハオマエが好きダッタ

市内五稜郭町

池田 忠志

あたいが卒業しても「いいのかな」

市内白鳥町

石倉 純子

ぼくんち和式君んちも？

亀田町富岡

上野真紀子

★PEACE★のみ祈る★

市内八幡町

上田しのぶ

希望の道を一步一步たいせつに

市内八幡町

小野 好子

すべての道をわが目標めざして

市内田家町

格口 玲子

沈黙

市内田家町

河本 栄子

我が目標めざして進め！！

市内田家町

国立 礼子

努力あるのみ

市内田家町

小泉 厚子

友情とは友だちの間の情愛である

市内田家町

小松 雅子

彼十彼女＝LOVE

市内八幡町

佐々木八千世

「今日」という日を大切に！

市内田家町

佐藤 紀子

我が道希望を持って進もう

市内五稜郭町

庄司 昌代

何事も信じあえる人に！

市内白鳥町

須田 光穂

何かいいことないかしら？

市内五稜郭町

高橋 美穂

「悔いなき日々を……」！

市内五稜郭町

富谷 昌代

自信を持って前進のみ

市内五稜郭町

長嶋 明子

別れのことばに散り行く青春の花

市内田家町

西山 素代

青春ヨ！大木にな！

市内五稜郭町

藤本ひろみ

未来に向かって一歩前進

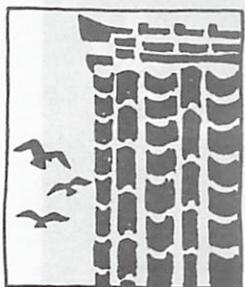
市内田家町

八島 栄子

正直のこうべに神宿る

市内田家町

大野真寿美



編集後記

笹島 やりました。ついにやり遂げた。最後の生徒会の大仕事。今年は生徒会の企画したのも載せることが出来、今年ともいえぬ大きな満足感にひたっています。

渋川 俺の雑誌イイナー！今年も中身で勝負しましたがどうでしょうか……？ 月日はビヨン・ビヨンとたつて最後の仕事になりました。さようなら。

高橋 この一年をふり返りながら作った雑誌。みなさん自身の記事でできたみなさんの雑誌です。一生懸命作りました。できればはどうでしょう？

照井 ようやく仕事が終つてホットした。君たちが思っているよりもめんどくさいもんだゾ。この仕事は。

目加田 去年より予算も増え、内容も充実してきました。この製作にあたってのみなさんの協力を役員一同感謝しております。

名古屋 おおページだ。そうそう。十号を迎えた「五稜」は質も量も大きく向上しました。今後はさらに発展することを期待します。

大滝 この雑誌の中身の充実さと同時に、私たち役員努力をも読みとっていただければ幸いです。

保坂先生 みなさんのご協力で、生徒会誌10号をお届けすることができました。インクの香りも生々しい所で、ご感想はいかがですか。

ページが増えていますね。写真も増えていきますね。先生方の似顔がいいね。それぞれのコーナーについてもずいぶんくふうされていますね。生徒会の諸君がやってくれました。来年はいよいよ本校の創立十周年です。さしずめ特集号といった所で、巻頭写真はオールカラー版、ページ数も200ページなんてのは夢でしょうか。教育的に意義深い雑誌で、しかもみなさんにとっても楽しく読まれ、ある人のように「わたし、お嫁に行く時、必ず持っていくわ」と言われるくらい大事に保管されているのですから、発展させたいですね。まあ、これは雇われ編集長のつぶやきとお聞きください。では、46年度の特集号までお元気で。



【五 稜】 第 10 号

昭和四十六年三月 十日 印刷

昭和四十六年三月十五日 発行

編集 函館市立五稜中学校

電話五一―三四五八番

発行 生徒 会

印刷 ほうに印刷

電話代五一―九二〇七番

(非 売 品)

函館市立五稜中学校生徒会

